

スルニ付

明治三年三月

明治五年四月辛亥

陸接國境關稅ニ關スル調査

其ノ三(瑞西各隣國通商條約)

註
付

朝鮮總督府財務局



內 容

- 一、瑞西獨乙通商條約
- 二、瑞西佛蘭西通商條約
- 三、瑞西奧太利通商條約
- 四、瑞西伊太利通商條約

瑞西獨乙通商條約

(千九百四年)

「瑞西、獨逸」通商條約

約 說

千八百九十一年十二月十日附「スイス」「ドイツ」間ノ通商及關稅ニ關スル條約ノ規定並其ノ附屬書及終局議定書ハ千九百四年十一月十二日附追加條約ヲ以テ次ノ如ク協定セラレタリ

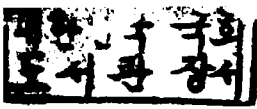
條 約

第一條 兩締約國ハ互ニ輸出入並通過貿易ニ關シ凡テ最惠國ノ取扱ヲ爲スモノトス

依テ兩締約國ハ上記ノ關係ニ基キ各締約國ノ一方ニ對シ第三國ニ既ニ許容シ又ハ將來許容セントスル凡テノ特權並便益、特ニ輸出稅輸入稅ノ輕減ヲ何等ノ反對給付ナク均霑セシムルコトヲ協約ス

兩締約國ハ又輸出入輸出又ハ通過貿易ノ何等カノ禁止ニ依リテ兩國間相互ノ貿易ヲ阻害セサルコトヲ保證ス 但シ本規定ニ關スル除外例ハ左記ノ場合ノ外之ヲ認メス

- 一、異常時ニ於ケル軍需品ニ關スル場合
- 二、公安保持ノ理由ニ依ル場合



三、公衆衛生上又ハ動植物ノ疾病及害虫又ハ其ノ他ノ危險ヲ防止スルニ必要ナル場合

四、内國立法ノ施行ニ依リ、或種品目ノ生産、運送、販賣又ハ消費ヲ制限シ又ハ禁止スル場

合

第二條 本條約附屬A書ノ稅率表ニ掲記セル「スイス」原產品又ハ製造品ノ「ドイツ」關稅地帶輸

入ニ際シテハ該稅率表規定ノ條件ニ依リ取扱フモノトス

本條約附屬B書ノ稅率表ニ掲記セル「ドイツ」原產品又ハ製造品ノ「スイス」關稅地域輸入ニ當

リテハ該稅率表規定ノ條件ニ依リ取扱フモノトス

第三條 兩締約國ハ互ニ兩國領土ノ一方ヨリ運送シ又ハ一方ニ運送スル各種貨物ニ對シテハ他

ノ一方ニ於テハ凡テ通過稅ヲ免除スルモノトス

第四條 兩締約國ハ相互ノ陸境貿易ヲ簡便ナラシメンカ爲本條約附屬C書ノ特別規定ヲ是認ス

第五條 兩締約國ハ互ニ輸出シタル物件ト再輸入スル物件ト同一物ナルコトノ確實ナル左記ノ

モノニ對シテハ輸入稅及輸出稅ノ免除ヲナスモノトス

一、一方ノ關稅領域ニ於ケル自由貿易地域ヨリ輸出シ他ノ領域内ニ於ケル市場並市ニ運搬ス

ル貨物(消費食料品ヲ除ク)又ハ賣買未定ノモノ若ハ見本トシテ市場並市場以外ニ運搬シタ

ル貨物ニシテ豫定期間内ニ原出地へ返還スルモノ

二、一方ノ領域ヨリ他方ノ市場ニ運ヒタル家畜ニシテ販賣セスシテ原出地ニ返還スルモノ

三 貨物輸出ニ使用ノタメ一方ノ領域ヨリ他方ノ領域ニ輸入スル箱其ノ他ノ包装材料及糸捲

木製及紙製ノ捲軸及之ニ類似スル物品並商用上使用セラレタル各種ノ包裝、若ハ之等ト同

一ノ物件ニシテ他方ヨリ返送セラレ前記ノ用途ニ使用セラレタルコトノ證明アルモノ

四、飼養ノ爲若ハ牧場ニ入レンカ爲一方ノ關稅域ヨリ他方ノ領土ニ伴ヒ來ル家畜ニシテ飼養

後若ハ入牧期間後再ヒ原出地へ送還スルモノ

第六條 兩締約國ノ一方ヨリ他ノ一國ニ修繕又ハ加工ヲ目的トシテ行ハルル輸入貨物ノ貿易ニ

關シテハ左記物件ノ當該國ヨリノ返送ノ際ニ於テ輸入税及輸出税ノ免除ヲナスコトヲ協定ス

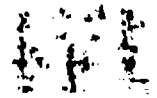
(イ) 柿又ハ糸捲ニ捲キ、燃合、洗滌、漂白、メルセリゼ、染色、染替、模様印刷型附、波

紋附、練上壓搾、襪寄、又ハ之ニ類似スル加工ヲ施ス爲ノ各種ノ絹並絲及織物

(ロ) 製鞣ノ皮並毛皮

(ハ) 他ノ一國ノ領域ニ輸出セラレタルモノニシテ假漆ヲ塗り磨キ又ハ繪畫ヲ施ス爲ノ物件

(ニ) 其ノ他ノ物件ニシテ特ニ定メラレタル規定ニ準據シ兩締約國ノ一方ヨリ他方ノ修繕、



加工若ハ精製ノ爲輸入セラレ其ノ工程ヲ終リタル後原出地ニ再輸入スル際其ノ本來ノ性ヲ變セサルモノ

此等ノ場合ニ於テハ凡テ輸出セル商品竝物件ト再輸入スル商品竝物件ト同一ナルコトノ實ナル證明ヲ必要トス

尙左記ノ物件ニシテ同一ナル事ノ正當ニ立證セラレルモノハ輸入税及輸出税ヲ免除スヘ

一、織物ニシテ之ニ刺繡ヲ施シタル後再ヒ原出地ニ返還センカ爲「スイス」ヨリ「Jindau

Phonten」ノ「バツアロアズ」税關ノ行政區「Friedrichshafen」ノ「ウルタンベルヂオア」税

ノ行政區「Sigmaringen」ノ「ブルシエン」税關行政區及「Constanz」ノ「バドア」行政區ニ輸送

モノ又ハ「ドイツ」ヨリ「スイス」ニ送付セラルルモノ又刺繡用圖案紙（stickmusterblatt）

竝刺繡材料（絹又ハ綿糸）ニ對シテモ織物ノ如ク税關ノ免除ヲナスモノトス

二、未裁斷ノ天鵝絨、絹綿天鵝絨竝之ニ類似セル織物ニシテ「スイス」ニ於テ裁斷ヲナサ

カ爲「ドイツ」ヨリ「スイス」ニ輸入シ之カ工程ヲ終リタル後再ヒ原出地ニ送還スルモノ

此等ノ場合ニ於テハ凡テ加工ノ爲輸出セル商品カ内國産タルコトノ證據ノ提示ニ依リ

關稅免除ヲ行フモノトス但シ右證據ハ染色又ハ染換ノ絹ニ對シテハ必要トセス

第七條 兩締約國ト相互ノ通商關係ヲ助成センカタメ關稅行政上支障ヲ來ササル範圍ニ於テ能
フ限リ通關手續ヲ簡易ナラシムヘシ

第八條 締約國ハ國費ノ爲或ハ國、郡、市、町、村及公共團體ノ收入ノ爲締約國ノ一方ノ生産
品ニ課スル生産、製造又ハ消費ニ對スル內國稅ヲ締約國ノ他ノ一方ノ生産ニ係ル同一品ニ對
シ課稅スル場合ハ如何ナル事由ニ依ルモ自國生産品ヨリ高率ノ稅ヲ課シ又ハヨリ繁褥ナル手
續ヲ設クルコトヲ得ス

締約國ハ何レモ自國ニ於テ生産セサル品目ニシテ本條約附屬稅率表ニ包含スルモノニ對シテ
ハ其ノ輸入ニ當リ內國稅ノ事由ニ依リテ新稅ヲ得シ又ハ增稅スルコトヲ得ス

締約國ノ一方ニシテ若シ本條約附屬稅率表ニ包含スル內國生産又ハ內國製造品ニ對シ必要ニ
依リ新ニ消費稅或ハ內國稅若ハ附加稅ヲ設定シタル場合ハ同一ノ外國產品ノ輸入ニ當リ同率
ノ關稅若ハ附加稅ヲ直ニ課スルコトヲ得ヘシ

締約國ノ一方ノ政府ノ專賣品タル產品竝此等獨專品ノ製造ニ充當スル物件ノ輸入ニ對シテハ
該專賣ノ保障ニ對スル附加輸入關稅―假令內國產ノ同種物件ニ對シテ本稅ノ徵收ヲ行ハサル
場合ニ於テモ―ヲ課スルコトヲ得ヘシ

締約國ハ本條第一項ニ規定セル原則ニ悖ルコトナク酒精ヲ使用シタル生産物ノ輸入ニ對シテハ定率法ニ規定セル關稅ノ外更ニ酒精ニ課スル内國稅ニ相當スル租稅ヲ課スルノ權限ヲ保留ス

第九條 貿易業者製造業者及其ノ他ノ產業家ニシテ其ノ本國ノ當局ヨリ交付セラレタル產業公認書ノ提出ニ依リテ居住國タル本國ニ於テ正當ニ納稅ヲナスモノタルコトヲ證明スルニ於テハ本人自ラ又ハ其ノ商用派出員ヲ以テ締約國ノ他ノ一方ニ於ケル貿易商ノ宅、取引場所又ハ生産者ノ宅ニ於テ賣買契約ヲナス權限ヲ有ス 亦其ノ職業上ノ必要ニ依リ供給貨物ヲ使用スルモノノ宅及貿易業者ノ宅及其ノ事務所ニ於テ注文スルコトモ得

右ニ關シテハ何レノ場合ニモ特別ノ租稅ヲ課セラルルコトナシ產業公認書ヲ有スル實業家(商用派出員)ハ本來商品ニアラサル見本品ノミヲ携帶シ得ルモノトス但シ内國ニ居住スル内國實業家(商用派出員)ノ此ノ種ノ許可ヲ享受スルトキハ商品ヲ携帶シ得ルノ權限ヲ與フヘキモノトス

産業公認書ハ本條約附屬D書ニ規定ノ雛型ニ依リ作成スヘシ

締約國ハ移動工業、行商及商工業ヲ營マサル個人宅ニ於ケル注文聚集ニ關スル立法上ノ凡テ

ノ自由行爲ヲ保留ス

第十條 本條約ハ締約國ノ一方ト關稅同盟ヲ現在締結シ又ハ將來締約スル諸國若ハ領土ニ其ノ效力ヲ及ホスモノトス

第十條(A) 本條約附屬A及B書ノ稅率表及之ニ包含スル追加規定ノ解釋又ハ適用ニ關シ締約國カ第三國ト締結シタル條約ニ定メタル關稅率ニ關シ兩締約國ニ紛議ヲ生シタル場合ハ締約國ノ一方ノ要求ニ依リ仲裁裁判ニ附シ之ヲ解釋スヘキモノトス
仲裁裁判所ハ常ニ左記ニ依リ構成スルモノトス

兩締約國ハ其ノ臣民ノ中ヨリ適當ナル人物ヲ各一名選任シ次ニ一友邦國ノ臣民中ヨリ採決仲裁員ヲ選定シテ仲裁裁判ノ職責ヲ果サシムヘシ 兩締約國ハ右ノ場合ニ於テ任命スヘキ採決仲裁員ノ人格ニ關シ裁判ニ先チ且又一定期間ニ於テ了解スルノ權限ヲ保留ス

兩締約國ハ本條約ノ解釋若ハ適用ニ關シ第一項ニ規定セル事項以外ノモノニ關シ意見ノ相違ヲ生シタル場合モ亦仲裁裁判ニ附スヘキコトヲ特ニ承認ス

◎附屬A書及B書譯文省略

附屬 C 書

陸境貿易ニ關スル規定

第一節

國境ニ隣接スル不動産及森林開發ヲ容易ナラシメンカ爲左記物件ノ凡テノ輸出及輸入稅ヲ免除スヘシ

禾束又ハ有穀ノ穀類

森林生産物木材及木炭

種子

苗木（果樹及裝飾用植物ノ苗木ヲ除ク）
棒

葡萄樹支柱

葡萄園灌溉用ノ器具及材料

各種農具

動物

但シ以上ノ物件ハ國境兩側十五キロメートルノ地域内ニ存在スル不動産ノ開發ニ使用スルモノナルコトヲ條件トシ兩締約國ハ之ニ關スル犯則防止ニ關シテハ自國ニ於ケル取締法ヲ施行スルモノトス

兩締約國ノ領域ヲ分界スル關稅線ニテ居住家屋又ハ農舍ト隔離セラレタル土地ニ生産スル凡テノ農産物ノ關稅線外ノ此等ノ居住家屋又ハ農舍ニ運搬セラルルトキハ凡テノ輸出及輸入稅ヲ免除ス

第二節

左記ノ物件ニ對シテハ輸出及輸入稅ヲ免除スヘシ

一、勞役ノ爲一定ノ期間一方ノ關稅領域ヨリ他ノ領域ニ運行シ勞役後原出地ニ歸還セシムル家畜、一定ノ期間使用ノタメ一方ノ領域ヨリ他ノ一方ノ領域ニ輸入シ次ニ使用後原出地ニ再輸入スル農業用機械並器具

二、木材、鞣革用樹皮、小麥、採油用種子大麻及其ノ他農場ニ生産スル類似ノ物品ニシテ之ヲ裁斷、搗碎、粉碎、挽割等ノ工程ヲ經ンカタメ常時行ハルル陸境小貿易ニ於テ一方ノ領

域ヨリ他方ノ領域ニ運搬シ工程ヲ終リタル後更ニ原出地ニ再輸入スルモノ

三、通常陸境小貿易ニ於テ加工ノ爲特ニ捺染、漂白、染色、皮鞣紡績製織等或ハ工匠家ニ依テ行ハルル加工若ハ修繕ヲ施サンカ爲一方ノ領域ヨリ他方ノ領域ニ運ヒ次ニ以上ノ加工ヲナシタル後再ヒ原地ニ輸入スル商品又ハ物件

四、工匠家自作ノ物品ニシテ他ノ關稅領域ノ隣接市場ニ携帶シ賣却セラレスシテ持歸ル物品但シ消費食料品ヲ除ク

第三節

前記第二節ノ規定ノ濫用ヲ防止センカ爲兩締約國ハ必要ノ取締規定ヲ施行スヘシ 但シ該規定ハ上記目的ニ適應スル最小限度ニ於テ施行スヘキコトヲ協定スルモ何レノ場合ニモ下記ニ關スルモノハ規定スヘキモノトス

一、規定ノ物件ヲ輸入又ハ輸出スルニ當リテハ物件ノ品名數量、並同一物件ナルコトヲ出來得ル限り確證スルニ必要ナル記入ヲナシ國境稅關ニ申告シ歸還ニ當リテハ同一稅關ヲ通過スルコト

二、國境稅關ノ定ムル一定ノ期間内ニ再輸出若ハ再輸入ヲ行フコト

國境税關ハ擔保ヲ要求スルノ權限ヲ有ス但シ該擔保ハ稅額ヲ超過スヘカラサルモノトス若シ上記ノ取締法ノ施行細則ニ關シ改訂ノ必要ヲ認ムル場合ハ之カ協定ヲナスヘキモノトス

第四節

「スイス」「ドイツ」間ノ國境小貿易ニ於テ郵便ニ依ラスシテ運送セラルル左記ノ物品ニ關シテハ關稅ノ免除ヲ行フ

- 一、生鮮又ハ簡單ナル處理ヲ施シタル肉片又ハ豚脂ニシテ重量ニキログラムヲ超エサルモノ
- 二、製粉所生産品ニシテ重量ニキログラムヲ超エサルモノ但シ米粉及碎米ヲ除ク
- 三、パチセリ・オルヂナール（普通ノ饅頭菓子類）ニシテ重量ニキログラムヲ超エサルモノ

第五節

陸境小貿易ニ於テ包裝ヲ施サス單ニ袋ニ入レタル生果、生ノ紅又ハ白ノ甘藍、生馬鈴薯ニシテ「スイス」ノ自由地帶ニ生産シ「ドイツ」ノ自由地帶ノ居住民ノ消費ノ爲販賣スルノ目的ヲ以テ同地帶ノ市場ニ鐵道ニ依ラス道路ヨリ運送セラルルモノニ對シテハ關稅ヲ免除ス

第六節

兩締約國ハ各第四節並第五節ニ規定スル便益ハ規定ノ條件ノ具備ニ依リテ供與シ又ハ之カ濫用

ノ場合ハ該便益ノ一部若ハ全部ノ取消ヲナシ得ル權限ヲ保留シ他ノ一國ニ於テハ第四節規定ノ場合ニ一方ニ於テ取締規定ヲ設ケタルトキハ直ニ自國領域ニ同一ノ規定ヲ設クルノ權限ヲ有スルモノトス

第七節

兩締約國ノ陸境小貿易ニ於テ勞働者ノ日用品タル食料及飲料ヲ勞働者又ハ其ノ家族ノ携帶シテ陸境ヲ通過スルモノニ對シテハ關稅ヲ免除スヘシ

附屬 D 書

商用旅行者ニ對スル公認書（雛型）

何年用 公認書番號

紋章

本書ハ「スイス」、「ドイツ」及「ルユクサンブルグ」ニ於テ有效トス

所持者住所氏名

年號 月 日

本書交附當局官廳印

署名

本書所持人ハ……………ニ於テ……………會社名(貿易業又ハ製造業ノ種類)……………ノ下ニ一

ノ……………ヲ所有シ……………商事旅行者ニシテ前記竝左記商社ニ對スル商品ノ注文聚集及賣

買契約ヲナサムトスルムノモルコトヲ證明ス

一、……………ニ於ケル……………

二、……………ニ於ケル……………

竝前記商店又ハ製造所ハ本國ニ於テ商工業ニ對スル正規ノ納稅ヲナスコトヲ證明ス

所持人ノ人物標徵

年令……………

身長……………

頭髮……………

特徴……………

終局議定書

第一、條約第一條ニ關スル件

「スイス」聯邦政府ハ「ドイツ」帝國政府ノ要望ニ依リ「ドイツ」ト最惠國ノ取扱ヲナササル一國ノ生産ニ係ル小麦並葡萄酒類ノ「スイス」市場ヨリ「ドイツ」ニ輸入スルモノニ對シテ「ドイツ」協定稅率ノ適用ヲ要求セサルコトヲ協約ス

第二、條約第二條ニ關スル件

A、締約國ノ一方ヨリ他方ニ運送スル左記ノ物件ニ對シテハ互ニ輸出輸入稅ヲ免除スヘシ

一、公設ノ美術展覽會美術協會又ハ公設美術館ニ輸入セラルル美術品

二、見本帖及端切又ハ不定形又ハ其ノ他ノ形狀ニ切斷セル部分ノ見本品但シ食料品又ハ消耗品ノ見本ヲ除ク

三、販賣又ハ營業上ノ爲ニ輸入スルモノニアラスシテ既ニ使用シタル上着類、肌着類移住者ノ自用ノ目的ヲ以テ携帶輸入スルモノニシテ既ニ使用シタル物品竝一方ノ領域ニ於ケル既設ノ本店又ハ支店ヨリ各部分ニ涉リテ既ニ使用シタル機械類ヲ他ノ領域内ニ設置セル支店又ハ營業本店ニ於テ使用センカ爲輸入スルモノニ對シテハ輸出及輸入稅ノ免除ヲナスヘシ但シ此ノ種機械類關稅免除ノ承認ハ其ノ都度之ニ關シ指令權ヲ有スル官廳ノ外與フルコトヲ得ス

尙締約國ノ一方ノ臣民ニシテ他領土ニ居住スルモノト婚約シ其ノ結婚ノ機會ニ際シ他領土ニ居住ヲ移スモノニ對シテ婚禮用ノ調度品及婚約又ハ婚約ノ贈物トシテ仕向ケ輸入セララル新品ニ對シテハ特別ノ許可ニ依リ關稅ヲ免除ス但シ食料品及消耗品未完成ノ紡績糸紡績糸製品(Gespinstwaren)其ノ他加工用ノ生産品各種原料品及動物ニハ該免稅ノ適用ヲナサス

四、相續財産タルコトノ確實ナル物件ニシテ既ニ使用シタルモノハ特別ノ許可ニ依リ關稅ヲ免除ス

五、旅行者(馭者及船頭並船員ヲ含ム)ノ旅行中自己ノ使用又ハ其ノ職業遂行ニ使用ノ爲携帶シ又ハ同一目的ノ爲本人ニ前後シテ輸入セララル新古ノ物件並巡廻興行者ノ其ノ職業遂行ノ爲又ハ觀覽ニ供スルタメ輸入スル生獸

外國ヨリ返送ノ旅行用櫃旅囊及其ノ他旅行ニ使用シタルモノニシテ旅行者ノ使用品ノ運送ニ充用シタルモノ旅行者(馭者ヲ含ム)ノ旅行中ニ於テ自用ニ供スル消耗輸入品並船頭及其ノ船員ノ食料品但シ後者ノ場合ニハ其ノ分量ハ二日分ヲ超過スルコトヲ得ス

六、人又ハ貨物ノ運搬ノ目的ノ爲ノミニ國境ヲ通過シテ輸入シ又ハ輸出ノ際右ノ運搬ヲ果シタル後外國ヨリ歸來スル各搬ノ運搬具(之ニハ其ノ附屬品ヲ含ム)及外國行ノ人又ハ貨物ノ

運搬ニ使用スル運搬具

騎乗用、各種運搬具ノ挽用又ハ貨物運搬ノ駄用ノ馬及其ノ他ノ動物（之ニハ之ニ附屬スル馬具等ヲ含ム）ニシテ單ニ前記ノ目的ニ限り國境ヲ通過スルモノ又ハ其ノ輸出ノ當リ上記ノ目的ヲ果シタル後外國ヨリ歸來スルモノ及人又ハ貨物ノ外國行運送ニ使用スル馬及其ノ他ノ動物

旅行者ニ屬スル各種ノ運搬具並馬及其ノ他ノ動物ニシテ若シ輸入ノ際運搬用トシテ使用セラレサルトキニ於テハ從前此等ノモノカ所有者ニ依リテ使用セラレタルコトヲ立證セラレ且其ノ使用ノ繼續ヲナスモノ

若シ上記ノ場合ニ於テ運搬具若ハ動物カ常時國內ニ滞在スルトキハ關稅ヲ課スヘシ

本項ノ第二、第三ニ掲記シタル動物ノ旅行中ノ飼料トシテ携帶輸入スルモノノ數量ハ動物ノ頭數及旅行期間ニ相應スル分量トス但シ此ノ分量ハ二日分ヲ以テ限度トス

七、國境ノ河川上ニ架設スル橋梁材料ニ關シテハ其ノ都度兩國政府間ニ於テ合議スヘキモノトス

關稅徵收ニ關シテ重量ヲ算定スルニ當リテ生スル「キロ」以下ノ端數ハ「キロ」トシテ計上

スルコトヲ得ス

B、A及B書ノ稅率表—兩國ニ於ケル輸入稅率

一、本條約附屬A書ノ稅率表ニ掲記スル「ドイツ」國定稅率及之ニ關スル施行規則ニ依リ千九百二十年十二月二十五日附法律ヲ以テ規定ノ同日附ノ稅率表ヲ認メ又本條約附屬B書ノ稅率表中ニ掲記セル「スイス」國定稅率及之ニ關スル施行規則ニ依リ千九百二十年十月十日附ノ稅率表ヲ承認ス

二、現行條約附屬A及B書ノ稅表中或種貨物ニ課スヘキ稅率ヲ他ノ貨物ニ對シテ規定セル稅率ニ準用スヘキトキニシテ國定又ハ協定稅率ニモ適用セララルル場合ハ右貨物ニ課スヘキ關稅ノ算定ハ最低稅率ニ據ル可キモノトス

三、「ドイツ」國定稅率第八九二號乃至第九〇七號第九一五號第九二一號乃至第二三號並「スイス」國稅定率第八八一號乃至第八九八號第九一三號第九一四號第九二二號乃至第九二四號ニ關シ

前記稅表番號中ニ掲記セラレタル物件（Ware）ノ條件ニ從ヒ解體ノ狀態ニ於テ輸入スルコトヲ得且此等ノ物件ニ對スル課稅又ハ免稅ノ取扱ハ無解體ノモノニ對ス

ル規定ヲ通用ス、ン

一八

同一物件ノ構成部分品ハ之ヲ同時ニ輸入シ若クハ之ヲ運入シ若クハ之ヲ運出スルハ之ヲ一車又ハ數車ニ分割積載シ輸入スルコトヲ妨ケス或種主要部分品(節動輪、車軸、軸承、礎板等)又ハ附帶部分品ノ不足ハ本規定ノ適用上重要トナラス若シ關稅ヲ品目ノ重量ニ從ヒ定ムルトキハ該不足部分品ヲ考量ニ入レスシテ其ノ總重量ニ適當スル關稅ヲ賦課シ通關スヘシ分割運送ヲナサムトスルトキハ凡テ第一回ノ輸送申告ノ際指定セラルヘキ期間内ニ同一稅關ニ就キ之カ免許ヲ受クヘシ但シ該期間ハ六ヶ月ヲ超過スルコトヲ得ス

解體品ノ全部ヲ同時ニ輸送シ又ハ分割輸送ヲスル爲ノ申告書ニハ該物件全體ノ設計書又ハ構成圖並各主要部分品ノ品名及重量ヲ記載セル主要部分表ヲ作成シ添附スルヲ要ス尙附帶部分品ノ概算重量ヲ記載スヘキモノトス

若シ一回又ハ數回ノ分割輸入後所定期間内ニ殘部ノモノヲ通關セサルトキハ既ニ輸入シタル部分ニ對シテハ其レニ該當スル稅率ヲ適用シ之ニ對シ定率上從量稅ノ規定ナキ場合ハ之ヲ構成スル材料ノ性狀ニ從ヒ課稅スヘシ

稅關ハ分割輸送ノ完了スル迄關稅納入ニ對スル稅額以上ノ擔保ヲ提供セシメ且輸入部分品

ノ同一品タルノ標記ヲ附スヘキコトヲ要求スルコトヲ得又税關ハ該物件ノ組立後關稅納入者ノ費用ヲ以テ檢査ヲ行ヒ分割輸送品ノ凡テカ當該物ニ全ク屬スルモノナルヤヲ檢證スルノ權能ヲ有スルモノトス

交換豫備ノ部分品ニ對シテハ常ニ別ニ通關スヘキモノトス

第三、條約第三條ニ關スル件

第三條ノ規定ハ兩締約國ノ適當ナル取締法(鉛封監視上ノ免許又ハ保稅運送免狀)ヲ採用シテ弊害ノ發生ヲ防止スルノ權限ヲ毫モ侵スヘキニアラス

第四、條約第四條及附屬C書ニ關スル件

陸境小通商ニハ國境ヲ距ル十五キロメートル以内ノ接境地域ノ隣接關係ニ依リテ行ハルル貿易ヲ包含ス

兩締約ノ領域カ兩國ヨリ外國ノ如ク看做サルル河川ニ依リテ境界セラレタル所ニ於テハ前記並附屬C書第一節ニ掲記ノ地帶ハ該河川ノ兩岸ヨリ相互ノ國內ニ向ツテ計算スヘキモノニシテ水路ヲ以テ占メラルル面積ハ此ノ場合地帶ノ計算ニ加ヘサルモノトス

第五、條約第五條及第六條ニ關スル件

A 販賣未定ノモノ若ハ見本トシテ輸入スル有税品ノ輸出及輸入税ノ免稅取扱ノ便益（第五條第一項）ニ關シテハ左記ノ條件ヲ特ニ附スルコトヲ得

一、輸出又ハ輸入ニ際シ當該商品又ハ見本品ニ對スル輸出又ハ輸入税額ニ對シ取扱税關ニ現金ヲ拂込ミ又ハ充分ナル擔保ヲ提供スヘシ

二、商品及見本ニ對シテハ同一物ナルコトヲ確證シ得ラルル様能フ限り證印ヲ押捺シ若ハ鉛封又ハ封章ヲ附スヘシ

三、通關證明書ニハ兩締約國ノ施行スヘキ細則ニ基キ左記ノ指示ヲ包含セシムヘキモノトス
 a 輸出又ハ輸入目的ノ商品又ハ見本ノ指示竝ニ其等ノ同一物ナルコトヲ證明スルニ足ル商品自體ノ本質竝特徴ノ記號ノ指示

b 該商品又ハ見本ノ課セラレタル輸出又ハ輸入税額ノ指示竝該税額ヲ拂込タルモノナルヤ又ハ擔保ヲ提供シタルモノナルヤヲ指示スヘシ

c 商品ニ關スル税關ノ附セル特徴ノ表示

d 商品又ハ見本ヲ再輸入セルコト若ハ外國へ再輸出セルコト或ハ保税倉庫ニ庫入セルコトヲ證明シ得サル限り規定期間滿了ニ當リ税額ヲ該供託金ヨリ算入シ又ハ擔保ヨリ徵收

スヘキ該期間ノ指示但シ該期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

四、商品又ハ見本ノ輸出又ハ輸入ハ之カ輸入又ハ輸出ヲ取扱タル税關以外ノ税關ヨリナスコトヲ得

五、若シ所定期間(第二項 d)ノ満了ニ先チ商品又ハ見本ニ對シ再輸入又ハ再輸出又ハ保税倉庫々々入ニ對シ必要ナル手續ヲ行ハンカ爲當局税關ニ該物件ヲ提出シタル場合ハ税關ニアリテハ検査ヲ行ヒ先ニ輸出又ハ輸入ニ對スル通關ニ提出シタル物品ナルカヲ鑑定スヘシ若シ右ニ關シ何等ノ疑ナキトキハ税關ハ再輸出、再輸入若ハ保税倉庫入ヲ許可シ拂込税額ヲ還附シ又ハ保證解除ニ對シ必要ナル手續ヲ採ルヘシ

B 締約國ハ各第五條及第六條規定以外ノ場合ニ生シ得ヘキ弊害防止ニ對シテ施行セントスル取締法規ニ關シテハ締約國ノ他方ノ了解ヲ必要トス該法規ハ極メテ必要ナル程度ニ限定シ原則トシテ本條約附屬C書ノ第三節ノ陸境通商ニ關シ規定セル取締法ノ範圍ヲ超エサル程度ニ於テ施行スヘシ但シ右ニ關シテハ左ノ規定ヲ尊重スヘシ

一、第五條及第六條ニ依リ關稅免除ノ要求ヲナスヘキ指定物件ノ通關ハ奧地稅關ヲ經テ行フコトヲ得

二、加工又ハ作業ニ因ル商品ノ重量ノ差異ハ出來得ル限り寛大ニ計算ヲ行ヒ且少量ノ差異ニ對シテハ課税ノ増加ヲナササルコト

C 仕出國ニテ製造セラレタル絲及織物ハ仕出國ノ内國生産品ト看做シ又粗製ノ儘ノ紡績糸及織物ニシテ外國ヨリ免税ニテ輸入シ更ニ之ニ加工ヲ施サンカ爲加工國ニ輸入スル目的ヲ以テ仕出國ニ於テ漂白、染色、燒毛、捺染、艶出又ハ刺繡若ハ意匠ヲ施シタルモノト雖仕出國ノ内國生産品ト看做スヘシ

商品ノ内國生産品ナルコトヲ證明スル爲ニハ製造品證票又ハ製造者ノ證明證ヲ商品ニ添附スヘキモノトス

D 輸出品ト再輸入品又ハ輸入品ト再輸出品ノ同一物件ナルコトヲ保障スルタメニ税關ノ附スル(證票、鉛封、封章等)ノ標示ニ對シテハ締約國ハ互ニ之ヲ尊重シ一方ノ領域ノ税關ニヨリテ施サレタル標示ハ他ノ領域ノ税關ニ於テモ均シク物件ノ同一ナルコトヲ檢證スルニ利用スヘシ但シ兩締約國ノ各税關ハ別ニ他ノ標示ヲ附スルノ權限ヲ有スルモノトス

E 第五條ニ規定ノ各機會ニ對スル免税通關ハ之ニ對スル條件ヲ具備セララルトキ「ドイツ」關稅地域ニ於テハ税關本署及二等税關ノ一級署竝右ニ關シテニ權能ヲ賦與セラレタル其ノ他

ノ税關事務所ニ於テ「スイス」關稅地域ニ於テハ税關本署並ニ等税關ニ於テ取扱フモノトス

第六條ニ規定セル場合ニ於テハ最高官廳ノ指定セル税關ニ限り通關取扱ノ權能ヲ賦與セラ
ルルモノトス

F 第六條ニ規定セル免税ニ對スル再輸入ノ期間ハ十二ヶ月トス

G 染色及捺染ノ加工貿易ノ爲締約國ノ一國ヨリ他ノ一國ニ送附セル織物ヲ加工國ニ於テ裁斷
スルコトハ再輸入ニ當リ免税ノ特典ヲ失フコトトナラス荷送人ハ之ニ關シ仕出國ノ税關ニ對
シ織物ノ裁斷セラルヘキコトヲ申告シ該織物ノ縁又ハ裁斷線上ニ鉛封又ハ捺印ヲ附セラレム
コトヲ申請シ少クトモ各裁斷布片面ニ一個ノ鉛封又ハ捺印ヲ有スル様ニスハシ 右手續ニ依
リ加工國ニ於テモ亦加工ニ先チ又ハ加工後裁斷ニ關シ申請スルコトヲ得

織物ヲ加工後適當ナル布片(手巾、肩掛等)ニ裁斷シ各布片ノ同一標證ヲ省略セントスルニハ
當該官憲ノ監視ノ下ニ裁斷ヲ行ヒ包裝ヲナシタルトキニ限り仕出國ニ於ケル輸出及再輸入ノ
取締ニ對スル税關ノ施封ヲ完全ノモノト認ムルモノトス 兩締約國政府ハ本件ニ關スル主務
機關ヲ通知スヘキモノトス

織物ノ裁斷ニ關シ加工國ニ於テ申告セラレタルトキハ其ノ都度加工國稅關ハ裁斷布片ノ再輸出ニ際シ仕出國稅關ニ於テ裁斷布片カ何レノ送品ニ屬スルカラ認識セシムル爲一ノ證明書ヲ發行スヘシ

H 鑛條ヲ捲キ又鑛條ノ運搬架設ヲ容易ナラシムル捲胴ニ對シテハ締約國ハ互ニ第五條第三ノ場合ニ對スル取締規定ヲ適用シ關稅ノ當座免除ヲナスヘシ

第六、條約第四條乃至第六條ニ關スル件

此等各條ニ規定シタル凡テノ場合ニ於テハ通關ニ對シテ何等ノ手数料ヲモ徵收セサルモノトス

第七、條約第七條ニ關スル件

一、兩締約國間ニ於ケル通商ニ關シ生産原地證明書ヲ要スル貨物ハ其ノ生産地ニ依リテ關稅率ヲ異ニスルモノニ限ルモノトス

二、一稅關ヨリ同一領域内ノ他ノ稅關ニ稅關監視ノ下ニ運送スル貨物ハ他ノ仕向地ニ到達スル爲一回若ハ數回外國土地ニ接觸スルコトアリトモ同一領域内ノ中間稅關ニ於テ更ニ通關手續ヲ行フヲ要セス

但シ一方ノ關稅領域ヨリ地方ニ運送セラル通過ニ關シテハ該貨物ニ附隨スル稅關關係ノ書類

申告ヲ以テ證明ヲ受クルコトヲ得ヘシ

三、鐵道蒸汽船郵便等ノ如キ一交通設備ニ依ル公定時間ニ依リ到着スル旅行者ノ貨物及携帶品ハ常ニ能フ限リ迅速ニ通關ヲ行ハシメ且稅關ノ普通開廳時間外ニ行ハルル此等ノ通關ニ對シテハ如何ナル場合ニモ特別ノ手数料ヲ徵スルコトヲ得ス

四、兩締約國ニ通商上ノ實際必要ヨリ生スル希望ヲ顧慮シ互ニ稅關ノ設立及其ノ權限ノ規定ニ關シテ可及的機宜ノ處置ヲ採ルコトヲ保證ス

第八、條約第八條ニ關スル件

一、專賣保障ニ對スル第八條第八條第四項ニ規定セル税金ハ該稅拂込後二ヶ月以内ニ於テ原料品ヲ專賣品以外ノ製造ニ使用シタルコトヲ證明シタル場合ハ該税金ヲ拂戻スヘシ

二、「スイス」ニ於テ現行ノ酒精專賣ニ關スル第八條第四項ノ規定ノ適用ハ唯壓搾又ハ乾燥シタル葡萄、葡萄ノ搾精、漬シタル果實、杜松子、龍膽根、南國產果實及其ノ他ノ類似品ニ限リ行フモノトス

第九、條約第十條Aニ關スル件

第十條A第一項ニ依リ仲裁裁判ヲ行フ場合ニ兩締約國ノ履ムヘキ手續ニ關シテハ左記ニ依ルヘ

シ

第一回ノ仲裁裁判ノ際ハ申込ヲ受ケタル國ノ領域ニ於テ第二回目ハ他方ノ領域ニ於テ行ヒ而シテ順次各領域ニ於テ指定ノ都市ニ裁判所ヲ設ケ開クヘシ當該國ハ右裁判ヲ開クニ必要ナル場所並書記及傭人ヲ提供スヘキモノトス仲裁裁判ハ採決仲裁官之ヲ管掌シ其ノ判決ハ投票ノ多數ニ依リ決定ス

兩締約國ハ特別事件ノトキハ其ノ都度又ハ全般ニ對シテ一回仲裁裁判ノ手續ヲ執ルコトヲ承認ス其ノ他ノ場合ハ裁判所自ラ手續ヲ決定スヘシ

裁判手續ハ兩締約國ニ異議ナキ場合ハ文書ヲ以テ行フコトヲ得此ノ場合ニハ前記第一項ノ規定ニ抵觸スルモ妨ケス

證人及鑑定人ノ召喚及聽取ニ關シテハ仲裁裁判所ヨリ兩國政府ニ對スル要求ニ依リテ兩締約國當局ハ各自内國民事裁判ノ受託裁判事務ニ關スルト同一方法ニテ法權ヲ執行スルモノトス

千九百四年十一月五日「リュセルン」ニ於テ兩國委員カ締結署名シタル議定書末條第三項ニ基キ兩締約國全權委員ハ本協約ノ正當ナルコトヲ認め茲ニ署名スルモノナリ

千九百四年十一月十二日「ベルン」ニ於テ

ア、ドウセ
(署名)

ア、クンヅリ
(同)

アルフレド、フレイ
(同)

エイクマン
(同)

ヴ、ピユラウ
(同)

瑞西佛蘭西通商條約

(千九百六年)

「瑞西、佛蘭西」通商條約

千九百零六年十月二十日議 定

千九百零六年十一月二十三日效力發生

第一條 本條約附屬A書ノ稅率表ニ掲記セル「フランス」生産品及製造品ニシテ直接「フランス」ノ版圖ヨリ「スイス」ニ輸入セラルルモノニ對シテハ上記稅率表ニ規定スル輸入稅並附加稅ヲ賦課スヘシ 該稅表ニ掲ケサル物件ノ「スイス」輸入ニ對シテハ最低稅率ノ特惠ヲ許容スヘシ 前記A書ノ稅表ニ規定セル或稅率ニシテ引上ケラレタル場合ニハ「フランス」政府カ之ニ關シ通告ヲ受ケタル後十二ヶ月ヲ經過スルニ非サレハ該新稅率ノ「フランス」ノ生産又ハ製造ノ貨物ニ對スル適用ヲ行フコトヲ得ス

第二條 本條約附屬B書ノ稅表ニ掲記セル「スイス」生産又ハ製造品ニシテ直接「スイス」ヨリ「フランス」ニ輸入セラルルモノニ對シテハ「フランス」ニ於テハ該稅表ニ規定セル輸入稅並總テノ附加稅ヲ課スヘシ又該稅表ニ掲記ナキ物件ニ對シテハ「フランス」ニ於テ最低ノ特惠稅率

ヲ適用スヘシ該B書ノ稅表ニ規定セル或稅率ニシテ引上ケラレタル場合ニハ聯邦政府ノ之ニ關スル通告ヲ受ケタル後十二ヶ月ヲ經過スルニ非サレハ該新稅率ヲ「スイス」ノ生産又ハ製造品ニ適用スルコトヲ得ス

第三條 「スイス」聯邦政府ハ「ゼクス」國ノ生産品ニ對シテハ本條約附屬C書ノ追加協定ニ包含スル利益ヲ許容スルコトヲ保障ス

第四條 各締約國ハ特ニ締約國ノ一國ノ第三國ニ許容シ又ハ將來許容スヘキ輸入又ハ輸出稅ニ關スル凡テノ便益特權又ハ稅率ノ低減ヲ無償ニテ他ノ一國ニ均霑セシムルコトヲ協約ス

第五條 「スイス」ニ委任シタル外國鐵道ニ依リテ「フランス」ニ發送セラレタル「スイス」生産又ハ製造ノ貨物ニシテ該貨物ヲ包藏スル貨車若ハ柵ノ「スイス」稅關ニ於テ封鎖又ハ鉛封ヲ施サレ「フランス」到着ニ當リ該鎖封又ハ鉛封ニ異狀ナク且兩國政府ノ國際鐵道ニ關シ規定セル取扱條件ヲ仕出地ニ於テ履行セラレタルニ於テハ該貨物ハ「スイス」ヨリ直接「フランス」ニ輸入セラレタルモノト看做スヘシ

「フランス」生産又ハ製造貨物モ亦「スイス」輸入ニ對シテハ同一條件ノ下ニ同一ノ取扱ヲ受クヘキモノトス

第六條 若シ締約國ノ一國ニシテ或内國生産又ハ製造品ニ對シ新タニ内國稅若ハ消費稅或ハ附加稅設定ノ必要ヲ決定シタルトキハ直ニ同種外國品ノ輸入ニ對シ同率ノ關稅又ハ附加稅ヲ課スルコトヲ得

前記課稅ノ廢止又ハ稅率ノ低減シタル場合ニハ之ニ準シ該附加稅ヲ撤廢シ又ハ減稅ヲ行フヘシ

但シ廢稅ノ場合ニ於テ生産ニ關シ取締又ハ管理行政ヲ制定シ内國生産者ニ直接又ハ間接ノ納稅ヲ負擔セシムルトキハ外國ノ產品ニ對シテハ之ニ相當スル附加稅ヲ設定シテ相殺スヘシ
「フランス」又ハ「スイス」製產品ノ輸出ニ對スル戻稅ハ該製產品又ハ其ノ製産ニ使用シタル原料品ニ對シテ内國稅又ハ消費稅ヲ課セラレタルコトノ確實ナル證憑ヲ提出スルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第七條 兩締約國ノ一方ノ生産ニ係リ他方ノ一國ニ輸入セララルル凡テノ貨物ニ賦課スヘキ内國稅又ハ消費稅ハ輸入當該國ノ同種貨物ニ賦課スヘキ稅率ヲ超過スル事ヲ得ス但シ輸入品ニ對スル稅率ハ内國稅制ニ依リ内國產品ニ負擔セラルル經費ニ相當スル率ノ増加ヲ行フコトヲ得

第八條 聯邦政府ハ「フランス」生産品ニ對シテハ如何ナル場合ニモ地方又ハ市町村ノ行政機關

ニ依リテ内國生産ニ賦課スル以外ノ又ハヨリ高率ノ入市税又ハ消費税ノ徴收ヲ行ハサルコトヲ保障ス之ニ對シ「フランス」政府モ亦「スイス」原産品ニ對シテハ如何ナル場合ニ於テモ地方又ハ市町村ノ行政機關ニ依リテ内國産ニ課スル以外ノ又ハヨリ高率ノ入市税又ハ消費税ヲ徴收セサルコトヲ保障ス

第九條 兩締約國ハ「アルコール」ヲ使用シタル調合品又ハ製品ニ對シ内國ノ「アルコール」ヲ使用シテ製産セル物品ニ對シテ課スル租税ニ相當スル關稅ヲ該輸入品ニ對シ課スル權限ヲ保留ス

第十條 金、銀、寶石製ノ細工品又ハ「プラチナ」其ノ他ノ貴金屬製品ニシテ兩締約國ノ一國ヨリ輸入スルモノニ對シテハ他ノ一國ニ於テハ類似ノ内國産品ニ對シ規定セル取締法ヲ適用シ若シ證標並保證ニ對スル賦課金ヲ徴收スル場合ハ同一課稅基準ニ依リ之ニ對シ徵稅ヲ施行スヘシ前記産品及證標ニ對スル取締事務取扱ノ爲現ニ「ベルガルト」及「ボンタリエ」ニ特設セラレタル稅關又ハ該兩稅關ノ代理ヲナス爲「スイス」國境附近ノ隣接地帯ニ設置セラルヘキ其ノ他ノ稅關ハ本條約ノ繼續中維持スヘシ金銀製品ニ對シテハ粗製品ノ仕上工程中如何ナル偽造ヲモ許サスシテ加工ヲ進捗セシムル爲取締規定ヲ適用シ且粗製又ハ精製ノ時計側ハ再輸出ヲ

保證スル擔保提供ニ依リ之ヲ「フランス」ノ鑑定局ニ宛テ送付スルコトヲ得

第十一條 「スイス」生産ノ貨物ニアラスシテ「スイス」ヨリ「フランス」ニ輸入セラルルモノニ對シテハ他ノ凡テノ「ヨーロッパ」諸國ヨリ輸入ノ同一貨物（「フランス」ノ船舶ニ依リ直接輸入セラルルモノヲ除ク）ニ對シ課稅スルヨリモ高率ノ附加稅ヲ課セサルヘシ

第十二條 兩締約國ハ「フランス」又ハ「スイス」貨物ノ輸入者ニ對シ生産原地證明書ノ提出ノ義務ヲ免除スヘシ

但シ第三國ノ一國ニシテ兩締約國ノ何レカノ國ト最惠國條款ヲ以テ協定ヲ行ハサル場合ハ特ニ生産原地證明書ノ提出ヲ要求スルコトヲ得 此ノ場合ニハ生産原地證明書ハ輸出國ノ稅關長、輸出地ニ於ケル商業會議所及地方官廳、輸入ヲナスヘキ國ノ領事又ハ領事代理ヨリ給付セラルモノトス生産原地證明書ノ給付又ハ査證ハ無料ニテナスヘシ

第十三條 輸入貨物ノ性狀、品質、等級、原產地又ハ價格ノ鑑定ハ仕向地ノ一般法規ニ照シテ行フヘシ

第十四條 稅關ニ於ケル輸入申告書ニハ稅率適用ニ關シ必要ナル表示ヲナスヘシ且貨物ニ從ヒ其ノ品名、種類、品質、生産地、仕向地並ニ重量、個數、容量及價額ヲ記載スヘシ

若シ申告者ニシテ有税貨物ノ數量又ハ品質ヲ記述スルコトノ不可能ナル場合ハ税關ハ申告者ノ費用ヲ以テ税關ノ指定又ハ認許セル場所ニ於テ該貨物ノ品質、重量、容量ヲ検査スルコトヲ申請書ニ許可スルコトヲ得輸入者ハ依テ輸入國ノ法規ニ依リ規定セラレタル期間内ニ貨物ノ詳細申告ヲナスヘシ

第十五條 正味重量ニ依リ課税セララル貨物ニ對シ申告者ニシテ現實ノ正味重量ニ依ル課税ヲ希望スルトキハ該重量ヲ申告書ニ記載スヘシ之ニ反スル場合ハ規定風袋ノ控除ヲナスノ外總重量ニ依リ算定ヲ行フヘシ

第十六條 本條約ノ適用ニ依リ徵收スル關稅ハ何等カノ海損又ハ損傷ニ對シテハ減稅ヲ行ハサルヘシ

第十七條 兩締約國ノ一方ヲ通過スル各種ノ貨物ニ對シテハ互ニ總テノ通過稅ヲ免除スヘシ不正品ノ通過ハ之ヲ禁止ス、火藥彈藥爆發物武器又ハ軍用品ニ對シテモ亦通過ヲ禁止ス 但シ特別ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニアラス

兩締約國ニ於テハ各々通過ニ關シ總最惠國ノ取扱ヲ保障ス

第十八條 兩締約國ノ一方ノ商工業者及其ノ他ノ產業家並其ノ旅商ハ他ノ一國ニ於テ身分證明

書ノ提出ニ依リテ何等ノ許可税ヲモ賦課セラルコトナク其ノ商業又ハ工業ニ對スル買入ヲナシ又ハ其ノ貨物ヲ賣買シ又ハ營業上之ヲ使用シ又ハ商社ニ於テ注文ヲ聚集シ得ルノ權限ヲ有シ又見本及雛型ヲ携帶スルコトヲ得但シ旅行地ノ內國法ニ依リ許可ヲ受ケスシテ行商スルコトヲ得ス

「フランス」ニ於テ營業スル商工業者及其ノ他ノ產業家竝其ノ商用派出員ニシテ「スイス」ニ於テ商工業ヲ營マサル個人ノ所ニ於テ注文ヲ聚集スルモノハ聯邦領土内ニ於テハ特別ノ免許税ヲ課セラルヘシ又「スイス」ニテ營業スル商業者工業者及其ノ他ノ產業家竝其ノ商用派出員ニシテ「フランス」ニ於テ同一ノ條件ノ下ニ注文スルモノニ對シテハ相互關係ニ依リ右ニ相當スル税金ヲ徵收スヘシ

本條第一項ニ規定セル人ニ對シ締約國ノ一國ニ於テ特許税ヲ課スル場合ニハ他ノ一國ニ於テハ對手國ノ商工業者及其ノ他ノ產業家竝商用派出員ニ對シ右稅率ニ準シ徵稅ヲ行フコトヲ得

第十九條 商用派出員ニ對スル身分證明書ハ本條約附屬D書ニ規定セル雛形ニ依リ作成スヘシ
兩締約國ノ一國ノ當事者ヨリ該證明書ノ提出ヲ受ケタル他ノ一國ニ於テハ若シ徵收スヘキ免

許税アル場合ハ之ヲ徴收シタル後新ニ當該國ニ於テ賣買行爲ヲ許可セル證明書ヲ交付スヘシ
兩締約國政府ハ前項ニ規定セル身分證明書ヲ發行スル主務官廳ノ名簿ヲ互ニ通報スヘシ

第二十條 關稅ヲ課セラルヘキ物件ニシテ見本及雛型ニ使用シ本條約第十八條ニ規定セル人ニ
依リ兩締約國ノ一方ノ國ニ輸入セラルルモノハ該品ノ再輸出又ハ保税倉庫庫入ニ對スル保證
ヲ必要トスル左記手續ヲ履行スルニ於テ免稅ノ取扱ヲナスヘシ

第一 見本品及雛型ノ輸入セラルヘキ稅關ハ前記物件ニ對シ賦課スヘキ關稅額ヲ測定スヘシ
商用派出員ハ稅關ニ對シ現金ヲ以テ課稅額ヲ供託シ又ハ之ニ相當スル擔保ヲ提供スヘシ

第二 當該品ノ同一物ナルコトヲ確證スルタメニ證印ノ押捺ヲ以テ證憑セラルニ於テハ證印
ノ押捺又ハ證標刻印並鉛封ヲ以テ證セラルルニ於テハ之ヲ見本品又ハ雛型ニ各別ニ施スヘ
シ該施證ハ容器ニ包含スル物件ハ容器ト密接スルモノニ對シテハ例外トシテ容器ノ上ニ行
フコトヲ得但シ輸入稅關ニ於テ該方法ノ總テノ保證ヲ表證スルニ充分ナルコトヲ認メタル
場合ニ限ルモノトス

兩締約國ノ一國ヨリ輸出シ更ニ再輸入セラルル見本ノ同一物ナルコトノ保證ニ附スル公認
證票ニ對シテハ相互ニ之ヲ認ムヘシ即チ輸出國ノ稅關當局ニ依リ附セラレタル證標ハ他ノ

一方ノ領土内ニ於テハ物件ノ同一物ナルコトヲ檢證スル場合行使スルコトヲ得ヘシ 但シ
兩締約國ノ稅關ハ何レモ取締上必要ト認メタル場合ハ之カ補足ノ證標ヲ附スルコトヲ得

第三 輸入者ニ對シテハ左記内容ノ許可書又ハ證明書ヲ交付スヘシ

イ、物件ノ同一物ナルコトノ鑑定ニ必要ナル物件ノ品種並特徴ヲ明細表示セル輸入ノ見本
又ハ雛型ノ目錄

ロ、凡テノ見本品又ハ雛型ニ賦課セラルヘキ關稅額ノ表示並該稅額ノ現金供託ニ依リ又ハ
擔保提供ニ依リ保證セラレタルヤノ記錄

ハ、見本品又ハ雛型若ハ其ノ容器ニ附セラレタル證憑(捺印、刻印又ハ鉛封)ノ表記

ニ、關稅額ニ對シ提供又ハ供託シタル擔保ノ保證有效期間ニ該期間内ニ於テ見本品又ハ雛
型ヲ再輸出又ハ保税庫入手續ヲ行ハサルニ於テハ右擔保ハ稅額ノ補償ヲナシ國庫ニ收納
スヘシ 但シ該期間ハ十二ヶ月ヲ越ユルコトヲ得ス

第四 輸入者ヨリハ右ニ對スル費用ハ徵收セサルモ證明書又ハ免狀交付ニ對スル印紙稅ヲ見
本品又ハ雛型ノ同一ヲ證スル目的ノ證標ノ貼付ノ爲トハ別ニ徵收スヘシ

第五 見本品又ハ雛型ハ輸入シタル稅關並其ノ他凡テ雛型又ハ見本品ノ通關ニ對シテ指定セ

ラレタル税關ヨリ再輸出スルコトヲ得

第六 若シ前記第三ノイ、ニ規定セル期間内ニ見本品又ハ雛型ヲ再輸出又ハ保税倉庫庫入ヲナサムカ爲之カ取扱税關ニ提出シタル場合ハ當該税關ハ提出セラレタル物件ノ検査ヲ行ヒ輸入免許狀ヲ交付セラレタル物件ナルカヲ鑑定スヘシ税關ハ若シ右ニ關シ何等ノ疑ナキトキハ再輸出又ハ保税倉庫庫入ヲ證明シ輸入ニ際シ供託シタル税額ヲ拂戻シ又ハ保證解除ニ對シテ必要ナル手續ヲナスヘシ

第二十一條 本條約第十八條第十九條及第二十條ノ規定ハ巡廻工業者並行商人ニ對シテハ之ヲ適用セス兩締約國ハ之ニ關シ各自國立法ノ完全ナル自由ヲ保留ス

第二十二條 兩締約國ハ各々他ノ一國ニ對シテハ衛生ニ關シ流行性獸疫又ハ收穫物ノ被害防禦ニ關シ若ハ戰時狀態ニ於テ必要ナル取締ニ關シテノ理由ノ外他ノ國ニ施行セサル輸入輸出又ハ通過ノ臨時禁止又ハ制限ヲ制定セサルコトヲ協約ス

第二十三條 「スイス」國臣民ハ「フランス」ノ内國圖案業者又ハ雛型工作者ト同等ノ保護ヲ同國ニ於テ享受スルニハ一ノ工場ヲ所有スルノ必要ナキモノトス「フランス」國臣民ノ「スイス」ニ於ケル場合亦同シ

第二十四條 若シ本條約若ハ其ノ附屬書ノ解釋ニ關シ又ハ第三國ト締結シタル條款ニ規定セル關稅率ノ適用ニ關シテ兩締約國ニ紛議ヲ生シタル場合又ハ該紛議ノ協約ノ解釋ニ關スルモノナルヤノ先決問題ニ關スル場合ニハ締約國ノ一方ノ要求ニ依リ本條約附屬書ノ規定ニ依リ仲裁裁判ヲ以テ該紛議ヲ解決スヘシ

第二十五條 本條約ハ「アルゼリー」ニモ適用スヘシ但シ「スイス」原產貨物ノ「アルゼリー」輸入ニ當リテハ「フランス」ヲ通過シタルモノニ非サレハ該規定ノ便益ヲ享クルコトヲ得ス
「スイス」原產貨物ニシテ直接「フランス」殖民地及領有地及印度支那保護國ニ輸入セラルルモノニ對シテハ外國貨物ニ對シテ施行スル最低稅率ヲ適用シ且「スイス」商業者竝工業者ハ前記領土ニ於テハ最惠國ノ取扱ヲ享クヘシ「フランス」殖民地及領有地竝印度支那保護國原產貨物ハ「スイス」ニ於テ均シク最惠國條款ノ取扱ヲ享ケ見本條約ノ規定ハ該地域ニモ施行スヘシ

第二十六條 本條約ノ規定ハ兩國ノ何レカニ於テ政府ノ專賣品タリ又ハ專賣品タルヘキ貨物ニハ適用セス

第二十七條 本條約ノ期間中兩締約國ハ千八百八十二年二月二十三日兩國政府間ニ調印セラレタル善隣協定及國境森林ニ關スル協定竝千八百九十九年該協定ノ附屬議定書ノ破棄ヲナササ

ルコトヲ協約ス

第二十八條 本條約ハ千九百六年十二月二十日ヨリ效力ヲ發生シ締約國ノ一國ヨリ他ノ一國ニ

對シ本條約廢棄ノ通告ヲナシタル日ヨリ一年間有效トス

第二十九條 本條約ハ批准ヲナシ批准書ハ「ベルン」ニ於テ交換スヘシ

仍テ兩國全權委員ハ茲ニ署名調印ス

「ベルン」ニ於テ千九百六年十月二十日正本二通ヲ作成ス

ア、ドウシエー

ラルデイー

クンヅリー

アルフレト、フレイー

ルイ、マルテン

エルネスト、ロール

レザオアール

ライエボー

(附屬A書及B書譯文省略)

附屬 C 書

ゼツクス國ニ關スル取極

「スイス」聯邦政府ハ「ゼツクス」國ニ對シ本日附ノ通商條約ニ規定ノ利益ノ外ニ左ノ便益ヲ許容スルコトヲ約定ス

第一條 「ゼツクス」國ノ國境ニ設置シタル「スイス」稅關ハ既ニ法律ヲ以テ免稅トセラレタル物

件ノ外左ニ掲記ノ產品ニ對シテ凡テノ輸入稅ヲ免除スヘシ

- 一、生ノタン(鞣革用樹皮)並泥炭塊
- 二、天産ノ儘又ハ割リ挽キ又ハ束ニシタル薪材
- 三、丸太材、角材、板、格子材並杭木

四、草及ブナノ木ノ葉及糧秣用又ハ敷寝用草及木葉、藁、桑葉、苜蓿並乾草

五、果樹又ハ山林用植樹並普通ノ幼樹

六、非化學的肥料、糠、鋸屑ノ如キ普通動植物ヨリ生スル廢物但シ煙草葉其ノ他特種工業ニ

使用スル副産物ヲ除ク

七、束ノ穀物

八、束ノ菜種

九、生又ハ綠皮ヲ有スル大麻、苧麻

一〇、藥用植物

一一、獸骨、獸角、獸脂

一二、天然石又ハ彫刻用ニ單ニ穿チ截石ノ爲截リタル石

一三、瓦及煉瓦

一四、各種ノ石炭

一五、粘土、陶土、耐火粘土鎔滓

一六、普通農業用ノ籠及篩

第二條 前記税關ハ「ゼツクス」生産ノ左記ノ品ニ對シテ總テノ輸入税ヲ免除スヘシ

一、生ノ蔬菜及園藝植物

二、生果

三、馬鈴薯

四、パン

五、活キ又ハ死シタル家禽

六、生鶏卵

七、生乳

八、生牛酪

九、蜂蜜

本條ニ掲記セル物品ハ市場ノ供給品ニアラサレハ免税取扱ヲ行ハサルモノトス依テ「スイス」ニ輸入又ハ運搬ヲナス者ハ販賣者自ラ馬車又ハ荷車、電車又ハ汽車ニ依リ之ヲ携行スヘキモノニシテ運送狀ニ依リ發送ノモノハ「スイス」ニ於テハ免税輸入ヲ除クヘシ

前記各品ノ各輸入重量ハ五「メトリツクキンタウ」ヲ超過スルコトヲ得ス但シ生牛酪ハ例外ト

シテ各免稅輸入額ヲ五キログラムニ制限ス

且「ジユネーブ」ノ市場ノ需用ニ仕向ル生産品ハ何レモ「ゼツクス」國ヨリノ輸出禁制トナスコトヲ得ス「ウオ」及「ヂユネーブ」行政區ノ國境ヨリ輸入スル左記品ニ對シテハ左ノ額迄ハ免稅輸入ヲ許容スヘシ

總重量ニテ單位メトリツクキントール

- | | |
|---------------|-------|
| 一、白葡萄酒 | 三、五〇〇 |
| 赤葡萄酒 | 五〇〇 |
| 二、麥酒及果實酒 | 三〇〇 |
| 三、各種ノ乾酪 | 二、五〇〇 |
| 四、生牛皮、羊及山羊皮 | 七〇〇 |
| 五、鞣革、着色又ハ染色ノ革 | 二〇〇 |
| 六、粗製革 | 六〇〇 |
| 七、農具及及物類 | 二〇〇 |
| 八、包裝用ノ箱 | 六〇〇 |

九、唐木細工家具及指物類

一〇、仕組材 一〇〇

一一、「トアリー」ノ天然ノ挽キ、又ハ磨カサル大理石 五〇〇

一二、普通ノ陶器 三、〇〇〇

一三、鐵粗製品(鑄鐵品ヲ除ク) 二〇〇

一四、衣服及肌着 五〇

第四條 「ゼツクス」國ノ鞣革工業者ハ「グオ」及「ジュネブ」行政區ノ國境ヨリ毎年生牛皮(有毛)千枚積、羊及山羊ノ生皮ヲ八千枚迄總テノ輸出税ノ免除ヲ受ケ輸出スルコトヲ得

第五條 「ゼツクス」國ノ住民ノ「サヴオア」ニテ購入シ「スイス」領土ヲ通過シテ其ノ國內ニ輸入スル家畜及各種ノ物品ニ對シテハ通過税ヲ徴收セス

但シ「スイス」ハ該通過ニ對スル取締規定ヲ保留シ獸疫流行ノ場合ニハ家畜類ノ輸入又ハ通過ノ禁止規定ヲ適用スヘシ衛生取締ニ對シテ徴收スル課税ハ通過ノ畜類ニ對シテハ半額ニ低減スヘシ

第六條 「輸入税ノ免除ヲ受クル貨物ハ」グオ」及「デユネーブ」行政區ノ國境ノ凡テノ税關及關稅

派出所ヲ經テ「スイス」ニ輸入スルコトヲ得 該貨物ハ關稅通路ニ依リ前記稅關又ハ派出所ニ
申告スヘシ

第三條ニ掲記セル貨物竝第四條ノ規定ニヨリテ免稅輸出ノ貨物ハ「グラン・サコネクス」、「メ
イリン」、「クラシエ」、「シャウツアンヌ」、「ツグエルテ」、及「シャシー」ノ稅關ヲ經ルニア
ラサレハ「スイス」ニ輸入シ又ハ「スイス」ヨリ輸出スルコトヲ得ス

「スイス」關稅行政廳ハ前記第三及第四條ニ定數量額ノ貨物ニ對シ毎年一月一日ヨリ十二月三
十一日迄有效ノ信用券 (Billet de Credit) ヲ交付スヘシ

自由地帶ニ居住スル人民ハ總テ其ノ國籍ノ如何ヲ問ハス取締規定（即チ輸入貨物ノ生産地ヲ
確認スル上ニ於テ「スイス」行政官ノ認定上必要ナル生産原地證明書ノ如キ等）ヲ遵守スルニ
於テハ以上ノ五條款ニ規定セル利益ヲ享クヘシ第三條ニ規定セル貨物ニ關シテハ如何ナル場
合ニ於テモ「ゼツクス」國當局ヨリ發給セラレタル生産原地證明書ヲ添附スヘシ

第七條 「スイス」國ニ於テ裁斷シタル衣服ヲ「ゼツクス」國ニ於テ仕立テンカ爲同地へ輸入セラ
レタルモノノ「スイス」ニ再輸入ノ場合ニ於テハ既成服ニ課スル輸入稅ヲ免除スヘシ此ノ種物
品ノ輸入及輸出ハ「メイリン」、「サコネクス」及「ヴァイルループ」ノ稅關ノ外取扱ヲナササルモ

ノトス

「スイス」關稅行政廳ハ該便益ヲ享受スルモノノ所持シ「スイス」稅關ニ提出スヘキ記錄簿ノ檢査施行ヲナスモノトス

「ゼツクス」國ニ居住スル勞働者ニシテ「スイス」國ニ勞働ノ爲入國スルモノノ其ノ器具ニ對シテハ總テ關稅ヲ免除スヘシ、勞働者ハ本件ニ關シ「スイス」稅關ヲ帳簿ノ交付ヲ受クヘシ

第八條 「ドウブ」縣ノ「ファイルグ」ノ國境稅關ハ從前ノ如ク「フランス」ニ輸入シ又ハ通過スル乳酪、時計、樂器用箱、時計材料及器具ニ對スル通關ノ取扱ヲナスモノトス

第九條 以上ノ規定ハ本日附協約ノ通商條約ト同時ニ效力ヲ發生シ又同一ノ期間有效トス
千九百六年十月二十日「ベルン」ニ於テ正本ニ通作成ス（以下省略）

（附屬D書商用派出員ノ身分證明書雛型省略）

附 屬 E 書

仲裁裁判ノ組織並手續

第二十四條ニ準據シ仲裁裁判ヲ開クトキハ其ノ都度左記手續ニ依リ之ヲ組織ス

一、兩締約國ハ互ニ仲裁裁判委員一名ヲ自國臣民中ノ有資格者ヨリ撰任シ仲裁裁判權ヲ委任スヘシ

二、次ニ兩締約國ハ第三國ノ臣民中ヨリ一名ノ採決仲裁員ヲ選任スヘシ

三、若シ右ニ關シ協調ヲ見サルトキハ締約國ハ前項ノ規定ニ依リ提案シタル以外ノ國籍ノ候補者ヲ一名選出スヘシ

四、本件ニ關シ兩國間ニ協調ヲ見サルトキハ右ニ依リ選出セラレタル候補者中ヨリ採決仲裁裁判ノ任務ヲ委任スヘキ委員ヲ抽籤ニ依リ決定スヘシ

五、採決仲裁員ハ裁判ヲ總理シ其ノ判決ハ多數決ニ依リテ下スヘシ

六、初回ノ仲裁裁判ハ抽籤ニ依リテ指定サレタル國ニ開キ第二回目ハ他ノ一國ニ於テ開キ而シテ順次兩國ニ交互ニ開クヘシ開催當該國政府ハ裁判ヲ開クヘキ都市ヲ指定シ又其ノ裁判ニ必要ナル場所並人員ノ提供ヲナスヘシ

兩締約國ハ各仲裁裁判所ニ對シテ該裁判ト之ヲ任命シタル政府トノ仲介任務ヲ果スヘキ委員ヲ列席セシムヘシ

裁判手續ハ例外トシテ文書ヲ以テナスコトヲ得仲裁裁判所ハ兩國ノ官吏ニ對シ口頭辯論ヲ

要求シ又出廷ノ必要ヲ決定セラレタル鑑定人又ハ證人ヲ要求スル權限ヲ有ス此等鑑定人又ハ證人ヲ召喚シ聽取スルカ爲ニハ兩締約國ハ各仲裁裁判所ノ要求ニ依リ受託裁判事務ノ執行ト同一條件ニ依リテ其ノ立會ヲ命スルモノトス
仲裁裁判ノ經費ハ兩締約國半額宛負擔スヘシ

瑞西奧太利通商條約

(千九百二十六年)

「瑞西、奧太利」通商條約

千九百二十六年一月六日議定

千九百二十六年三月一日「ヘルン」ニ於テ批准交換

同日效力發生

第一條 兩締約國ハ輸入輸出並通商貿易ニ關シ最惠國ノ權利及取扱ヲ互ニ保障ス

依之兩締約國ハ各々他ノ一國ニ對シテハ上記ノ權限ニ於テ第三國ニ協定シ又ハ將來協定スヘ

キ凡テノ特權並特典殊ニ關稅ノ額、其ノ徵收及擔保、保稅倉庫（自由港自由地帶及私設保稅倉庫ニ於ケル貨物ノ搬入搬出並藏置ニ關スル制度ヲ含ム）内國稅、稅關ニ於ケル通關手續及取扱、並政府、縣又ハ市町村ノ收入ニ對シテ徵收スル内國稅又ハ消費稅ニ對スル特權並特典ヲ無償ニテ直ニ均霑セシムルコトヲ協約ス

但シ國境交通ヲ容易ナラシメンカ爲他ノ陸境國ニ對シ又ハ或地方ノ居民ニ對シ現ニ許容シ又ハ將來許容スヘキ特惠並關稅同盟ノ結果締盟國ノ一國ト既ニ取極メ又ハ將來協定シ得ヘキ

便益ニ對シテハ之ヲ除外ス

現行條約ハ關稅同盟協約ニ依リ「リユクテンステイン」公符領ノ「スイス」國ニ關係ヲ保ツ限リ同領土ニ對シ其ノ效力ヲ均シク及ホスモノトス

第二條 兩締約國ハ輸入、輸出又ハ通過ニ對シ何等カノ禁止又ハ制限ヲ以テ相互ノ貿易ヲ阻害

セサルコトヲ協約ス

但シ左記ノ場合ニハ右規定ヲ除外ス

一、異常時ニ於ケル軍需品ニ關スルトキ

二、公安保持ノ事由ニ依ルトキ

三、衛生警察及動植物ノ疾病害虫及其ノ他一切ノ有害毒物ヲ防止スル事由ニ依ルトキ

四、一國ニ於テ内國法令ニ依リ内國生産物ノ生産貿易ノ運搬及消費ニ對シ制定シ又ハ制定セ

ントスル禁止又ハ制限ヲ同種品目ノ外國貨物ニ施行スルトキ右ハ特ニ締約國ノ一國ノ領土

ニ於ケル政府ノ專賣品タル貨物ニ關スルモノトス 但シ他ノ一國トノ貿易ニ於テ政府ノ專

賣品又ハ專賣品ニ類似ノ規定品タル何等カノ貨物ノ通過ニ對シテハ專賣法ノ效力ヲ保障ス

ルニ必要ナル範圍ニ於テノミ之ヲ阻止又ハ防止スルコトヲ得

第三條 現行條約附屬A書ニ掲記セル「スイス」原產品又ハ製造品ニ對スル「オーストリア」ニ於ケル輸入關稅並附屬B書ニ掲記セル「オーストリア」原產品又ハ製造品ニ對スル「スイス」ニ於ケル輸入關稅ハ該兩附屬書規定ノ稅率ヲ超過スルコトヲ得ス

外國生産ノ原料ニ依リ製造スル加工貿易範圍ノ製造品ハ之ヲ當該加工地ノ生産品ト看做スヘシ

第四條 若シ締約國ノ一國ノ第三國ノ一國ニ對シ締約國ノ他ノ一國ノ同一原產品ニ課スルヨリモ高率ノ課稅ヲナシ又ハ締約國ノ他ノ一國ノ貨物ニ對シテ施行セサル輸入ノ制限又ハ禁止ヲ第三國ノ一國ノ同一貨物ニ對シテ施行スルトキハ締約國ノ他ノ一國ノ生産品ニ對シテハ必要ニ依リ之ニ關シ輸出國ニ依リ定メラレタル當局發給ノ生産原地證明書ノ提出ニ依リテ最低稅率ノ適用又ハ其ノ輸入許可ヲナスコトヲ得

若シ輸入國ニシテ生産原地證明書ニ對シ領事ノ査證ヲ要求スルトキハ該査證ノ手数料ハ一件ニ付金貨一フラン又ハ金貨一「クロース」ヲ超過スルコトヲ得ス、該手数料ニ關シテハ如何ナル場合ニモ貿易ノ支障トナラサル様規定スヘシ

第五條 各種ノ通過貨物ニシテ直接ノ通過ヲナシ又ハ稅關監視ノ下ニ其ノ通過中荷卸シ倉入解

裝復裝ヲナシ再ヒ積荷ヲナスモノニ對シテハ兩國共ニ凡テノ通過稅ヲ免除スヘシ

尙兩締約國ハ通過ヲ阻害スル如キ手續又ハ其ノ他ノ規定ヲ通過ニ對シテ互ニ施行セサルコトヲ協約ス

第六條 兩締約國ハ「スイス」及「グォラルベルグ」間ノ刺繡貿易ヲ容易ナラシメンウ爲該貿易ニ關シ本條約ノ附屬D書ノ規定ヲ適用スヘシ

該規定ハ本條約ト同時ニ其ノ效力ヲ發生ス、但シ本條約ト分離シテ破棄ノ通告ヲナスコトヲ得其ノ破棄通告ノ場合ニ於ケル猶豫期間ハ本條約ト同シ

第七條 兩締約國ハ他ノ一國ノ領土ヨリノ輸入品ニシテ若シ内國ニ於テ消費稅其ノ他ノ内國稅ヲ課セラルル物品ト同一品又ハ上記内國稅ヲ課セラルヘキ原料ヲ以テ製造シタル物品ナルトキハ該輸入品ニ對シテ内國稅ヲ課スルノ權根ヲ保留ス

但シ第八條ノ規定ヲ保留シ輸入品ニ對シテハ内國產品ニ課スルヨリモ高率ノ課稅ヲナスコトヲ得ス

兩締約國ハ國內的課稅法令ヲ事由トシ其ノ領土内ニ生産セサル物品又ハ現行條約附屬稅率表ニ掲記ノ貨物ノ輸入ニ對シテ特ニ稅ヲ創設シ又ハ増稅スルコトヲ得ス

第八條 政府ノ專賣品タル物品並專賣品製造ニ專用ノ原料ニ對シテハ内國產同種物品又ハ原料

ニ對シテ、課稅ヲナササル場合モ專賣保證ノ爲其ノ輸入ニ當リ輸入附加稅ヲ徵收スル事ヲ得
但シ規定期間内ニ於テ右附加稅ヲ課セラレタル原料ヲ專賣品以外ノ製造ニ使用シタルコトヲ
證明シタル場合ハ右附加稅ヲ拂戻スヘシ

第九條 兩締約國ハ他ノ一國ノ承認ヲ經ルコトナク事由名目ノ如何ニ拘ラス如何ナル物品ニモ
輸出獎勵金ノ交付ヲナスコトヲ得ス

但シ内國產品ノ製造又ハ加工ノ爲使用スル原料品ニ課スル輸入關稅並該產品ノ製造又ハ加工
ニ對シ其ノ使用原料品ニ對シテ課スル内國稅ハ前記内國稅ヲ課セラレタル產品若ハ關稅又ハ
内國稅ヲ課セラレタル原料ヲ以テ製造シタル物品ノ輸出ニ當リ一部又ハ全部ノ戻稅ヲナスコ
トヲ得

第十條 兩締約國ハ共通ノ國境ニ於テ必要ナル權限ヲ有シ且充分ナル數ノ稅關ノ設置維持ヲ各
負擔スヘシ

第十一條 締約國ハ其ノ版圖ニ於ケル寄港又ハ積換ニ對シテハ如何ナル稅ヲモ徵收スルコトヲ
得ス又貨物運送者ノ規定ノ場所ニ於ケル停留、荷卸又ハ積換ヲナスコトヲ妨クルコトヲ得ス、

但シ航海取締、衛生取締又ハ課稅徵收ヲ保障スルニ必要ナル取締規定ハ之ヲ保留ス

締約國ノ一方ノ所屬ノ船頭及小舟ハ他方ノ版圖ノ天然又ハ人工ニ依ル水路ヲ内國船頭及船舶ト同一ノ條件ノ下ニ同一ノ船舶稅及船貨稅ヲ納付シ自由ニ航行スルコトヲ得

締約國ノ一方ノ臣民ハ他方ニ於ケル堤防道及其ノ他ノ道路、運河、閘門渡船、橋及廻轉橋、港及荷役場所、航路ヲ標識スヘキ燈火及目標、水先案内、公設起重機及秤量機、倉庫及救助用ノ施設、船貨及其ノ他ノ物件ノ寄託倉庫ノ使用ニ對シテハ該施設及設備ノ公用ヲ目的トスル以上政府又ハ私人ニ管理セラルト否トニ拘ラス内國民ト同一條件ノ下ニ同一ノ料金を納付シ使用スルコトヲ得

締約國ノ他ノ一方ノ領土内ニ業務取扱所又ハ支店ヲ有セサル締約國ノ一方ノ臣民ニシテ外國間ノ所定地ノ航海ニ從事スルモノニテ其ノ事業ヲ締約國ノ他方ノ領土ニ擴張シ當該國ノ港及荷役地ニ關係ヲナストキハ他ノ一方ノ版圖内ニ於テハ其ノ業務ニ對シ工業稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

同様ノ原則ヲ運搬業ニモ準用ス

第十二條 締約國ハ相互ノ國境貿易ヲ保護センカ爲可能ナル範圍ニ於テ本條ニ關スル追加規定

ヲ約定ス

第十三條 締約國ハ規定期間内ニ於ケル再輸出又ハ再輸入ヲ條件トシ取締法及犯則ノ場合ニ於ケル懲罰權ヲ保留シ兩國ノ一方ヨリ他方ニ冬越放牧又ハ市ノ爲連行シ來ル家畜ニ對シテハ輸出輸入税ヲ免除スヘシ

兩締約國ハ本條約ノ一部ヲナス附屬E書ニ於テ家畜流行性病疫ニ關スル取極ヲ行ヒタリ該協定ハ本條約ト同様ニ施行ス、但シ締約國ハ本條約トハ別途ニ三ヶ月間ノ猶豫期間ヲ置キ該協定ノ破棄ノ通告ヲナスコトヲ得

第十四條 締約國ノ一方ヨリ他方ニ人又ハ貨物ヲ單ニ運搬センカ爲通過スル各種ノ運搬用物件(自轉車及自動自轉車ヲ含ム)及動物ハ六ヶ月ノ規定期間ニ於テ再輸出又ハ再輸入ヲナシ竝同一物ナルコトノ證憑ヲ提示スルヲ條件トシテ凡テノ輸入輸出税ヲ免除スヘシ、尙繋駕(attach)竝前記運搬用物件ニ附屬シ運搬途中ノ使用ニ供メルモノニ對シテモ同一ノ條件ニ依リ假輸入ノ許可ヲナスヘシ、前記ノ運搬機關ニシテ締約國ノ一方ヨリ他方ニ人又ハ貨物ノ運搬ヲナスモノハ其ノ歸還ニ於テ新ニ積載ヲナシタル場合ト雖該積載ヲ行ヒタル場所ノ如何ニ拘ラス規定關稅ノ免除ヲ享クルノ權限ヲ失ハサルモノトス

各種引越用ノ車輛並框ニシテ此等運搬用物件ノ道路ニ依リ又ハ鐵道ニ依リテ國境ヲ通過スル場合モ亦本條ノ規定ノ適用ヲ受クヘシ

第十五條 兩締約國ノ十二ヶ月ノ期間ニ於テ再輸出又ハ再輸入ヲナスヲ條件トシテ且之ニ關ス

ル取締法ヲ保留シ凡テノ輸出輸入税ノ免除ヲ相互ニ規定セル物件次ノ如シ

一、修繕ヲ目的トスル物件

二、關稅ヲ課セラルヘキ見本品(旅商ノ携帶スル食料飲料並煙草ヲ除ケル見本品ヲ含ム)

三、木、鐵、土又ハ其ノ他ノ材料ニテ製シタル袋、箱、樽、籠、大瓶及其ノ他類似ノ容器ニシテ物

件ヲ填充シテ再輸出センカ爲空虛ニテ輸入シ又ハ物件ヲ填充シテ輸出ヲナシタル後空虛ニ

テ再輸入ヲナスモノニシテ既ニ使用シタル標記ヲ施サレタルモノ

四、「スイス」ニ於ケル商店ノ「オーストリア」ニ於テ又ハ「オーストリア」ニ於ケル商店ノ「ス

イス」ニ於テ組立、試験、修繕ノ作業ヲ完成センカ爲「スイス」ヨリ「オーストリア」ニ又ハ

「オーストリア」ヨリ「スイス」ニ送付シ若ハ商人自ラ携帶輸入スル器具並機械

五、兩國ノ一方ヨリ他方ニ發送スル修繕用機械部分品

六、鑄物ニ使用スル木又ハ其ノ他ノ材料ニテ製造セル型

七、市及市場ニ輸入シタル商品（食糧品ヲ除ク）又ハ市及市場取引以外ノ機會ニ於テ販賣セ
ンカ爲發送シタル商品（食糧品ヲ除ク）

第十六條 兩締約國ノ一國ノ貿易業者、製造業者並其ノ商用派出員ハ他ノ一國ノ版圖内ニ於ケ
ル規定ノ手續ヲ以テ自國當局ノ發給セル身分證明書ノ提出ヲナシ當該國ニ於テ其ノ貿易製造
又ハ其ノ他ノ事業ノタメ買入ヲナシ又其ノ供給商品ノ賣買ヲ爲シ若ハ之ヲ職業用又ハ工業用
ニ利用スル人又ハ商會ニ於テ何等ノ賦課金、料金ヲ徵收セラルコトナク注文聚集ヲナスコト
ヲ得

尙之等事業者ハ内國商用派出員ニ許可セラレタル場合ノ外商品ニ非サル見本又ハ離型ヲ携帶
スルコトヲ得商用派出員ニ依リ輸入セラレ關稅保證ニスル手續ヲ簡單ナル記録手續ニ依リテ
通關シタル貴金屬ノ商品ハ顧客ニ提示スル見本用以外ニ使用スルコトヲ得ス從テ自由販賣ヲ
ナスコトヲ得ス若シ擔保充分ニ提供シタル場合ハ申請ニ依リ刻印ヲ省略スルコトヲ得
規定期間内ニ右見本ノ再輸出ヲナササル場合ハ右保證金ハ國庫ニ入ル

前記規定ハ巡廻工業者行商人又商工業ヲ營マサルモノノ所ニ於テ注文聚集ヲナスモノニ對シ
テハ之ヲ適用セス之ニ關シテハ兩締約國ハ自國法律ノ完全ナル自由ヲ保留ス

第十七條 締約國ノ一方ノ版圖ニ於テ適法ニ設立セラレタル株式會社及商事、工業及金融會社並保險會社ハ他ノ一國ノ版圖内ニ於テ當該事項ニ關スル其ノ國法ヲ遵守シテ凡テノ權利ヲ有效ナラシメ殊ニ裁判上原告又ハ被告トシテノ訴訟權ヲ享有スルモノトス此等ノ會社ノ締約國ノ他ノ一國ニ於ケル不動産及其ノ他ノ財産ノ取得ニ關シテハ當該國ニ施行サルル國法ニ依ルヘシ、又此等商會ノ締約國ノ他方ノ領土内ニ於ケル業務執行ニ對スル許可ニ關シテハ當該國ニ施行サルル法令ニ依ルヘシ、如何ナル場合ニ於テモ前記商會ハ他ノ一國ニ於テハ第三國ノ適法ニ設立認可セラレタル類似ノ會社ノ現ニ享有シ又ハ將來享有スヘキ權限ト同一ノ權限ヲ享受スヘキモノトス、前記商會並其ノ支店及代理店ハ他ノ一國ニ於テハ如何ナル名目ニ依ルモ當該國ノ商會ニ旅行スルヨリモ高率又ハ別項ノ關稅、内國稅及賦課金ヲ課セラルルコトナキモノトス

第十八條 締約國ハ各々他ノ一國ニ於テ領事館ノ設置ヲ認容セラレタル場所ニ駐在スヘキ領事副領事代理領事ヲ任命スルノ權限ヲ有スヘシ

總領事、領事、副領事及、代理領事ハ職務執行權ニ對シ其ノ駐在國政府ヨリ認可狀又ハ之ニ準スル證狀ノ交付ヲ受クヘシ 上記認可狀又ハ之ニ準スル證狀ヲ交付シタル政府ハ該認可狀

又ハ之ニ準スル證狀ニ關シテハ取消ノ理由ヲ指示シ此ノ取戻ヲナシ得ルノ權限ヲ有ス

兩締約國ノ領事官憲ハ最惠國ノ同等級ノ領事官憲ノ現ニ享有シ又ハ將來許容セラルヘキ權利
特權、免責、免除ヲ享受スヘシ 兩締約ハ之ヲ派遣シタル政府ノ臣民ニ非サル領事官憲並凡
テノ名譽領事官憲ニ對シテハ前項規定ノ特權並領事官文書ノ不可侵權ニ對シテ制限ヲ附スル
コトヲ承認ス

第十九條 本條約並本條約附屬A書乃至B書ノ解釋ニ關シテ異議生シ締約國ノ一方ヨリ之ヲ仲
裁裁判ノ判決ニ付センコトヲ提議シタル場合ニハ他ノ一國ハ之ニ同意シ且該紛議ノ條約ノ解
釋ニ關スル異議ナルヤ否ヲ確認スヘキ先決問題ノ裁判ニ關シテモ同意ヲナスヘキモノトス
仲裁裁判ノ判決ハ強制執行力ヲ有スルモノトス

第二十條 本條約ノ批准證書ノ交換ハ「ベルン」ニ於テ行ヒ其ノ效力ハ交換ノ日ヨリ發生スヘシ
又其ノ期間ニ對シテハ其ノ效力發生後一ケ年ト定ム、但シ該期間終了前三ケ月以内ニ廢棄ノ
通告ナキトキハ未定期間ニ對シテハ默認更新ヲ以テ其ノ效力ヲ延長スヘシ、本條約ハ如何ナ
ル場合ニ於テモ破棄通告ヲ受ケタル後三ケ月間ハ有效トス

本通商條約ノ調印終了後兩締約ノ一國ニ依リ制定セラレタル關稅率ノ増加ニシテ他ノ一國ヨ

リノ輸入貿易ニ支障ヲ來ストキハ他ノ一國ノ要望ニ依リ之ヲ商議スヘキモノトス、若シ關稅
 率引上ニ關シテ協定實現ヲ見サル場合ハ他ノ一國ハ三ヶ月ノ期間ヲ保留シテ本條約破棄ノ通
 告ヲナスコト得

仍テ之カ證トシテ各全權委員ハ左ニ署名調印スルモノナリ

一千九百二十六年一月六日

「ベルン」ニ於テ此ノ正本二通ヲ作製ス

ストユツキ

エルネウト・ロール

エルネウト・ウエテール

エ・ガスマン

エル、デー、ポリー

(附屬A書及B書譯文省畧)

附 屬 C 書

追加條約

第三條ニ關スル件

兩締約國ハ相互ニ輸入輸出税ヲ金貨ニテ徵收スル權限ヲ保留ス、但シ本件ニ關シテハ兩締約國ハ最惠國ノ取扱ヲ保障シ一方ノ國ノ關稅ヲ金貨ニテ徵收スル場合ニ當該國通用ノ紙幣ヲ以テ之ニ紙幣ノ時價低落ニ相當スル打歩ヲ増加シテ納入スルコトヲ得

第七條及第九條ニ關スル件

締約國ハ第七條末項ノ規定ハ取引上ノ租稅ニ適用セサルコトヲ協約シ且本稅ヲ課セラレタル貨物ノ輸出ニ當リテノ其ノ拂戻ハ第九條第一項ノ趣旨ニ於ケル輸出獎勵金ト認メサルヘシ

第十一條ニ關スル件

第十一條末項規定ノ運搬業者ノ意義ハ鐵道ヲ除ケル他ノ凡テノ道路ニ依リ人又ハ貨物ヲ正規ニ運搬スル業務ト解スヘシ工業稅トハ營業ニ賦課スル凡テノ稅ノ意義ニシテ之ニハ營業ニ依リ生スル所得稅ヲモ含ミ國庫及市町村等ノ收入トナルモノト解スヘシ

運送營業者ニシテ締約國ノ他方ノ版圖内ノ運送ニ從事スルトキハ重複課稅ヲ避クル爲ニ設ケタ

ル規定ヲ保留シ國法ニ依リ課稅ヲ行フヘシ、若シ航海運送ノ經營者ニシテ其ノ營業ノ傍ラ締約國ノ他方ノ領域ニ於テ別ニ獨立ノ附帶事業ヲ營ミ又ハ其處ニ財產ヲ所有スルトキハ之ニ關スル內國法ノ適用ヲ受ケ別ニ制限ナク稅金ヲ賦課セラルヘシ

締約國ノ他方ノ預域内ニ在ル停車場ニ於テ運送ヲ營業スルモノノ其ノ運送機關ヲ以テ運送スル貨物ヲ再ヒ發送スル目的ヲ以テ直接土地ノ仕向人又ハ鐵道ニ引渡ス其ノ行爲ハ該行爲ノ航海業ニ關スル限り獨立ノ附帶事業ヲ成立スルモノト看做ササルヘシ之ト反對ニ運送業者ノ自己ノ運送機關ヲ以テ運送セントスル貨物ノ引渡ヲ同一場所ニ於テ受ケ若ハ他ノ一方ノ版圖ニ所在スル運送業ト常規ノ業務關係ニアル場合ニ於テ亦同様ノ解釋ニ依ルヘシ

第十二條ニ關スル件

第一節

共同ノ關稅線ヨリ兩領土ニ進出シ十キロメートル迄ノ地域ヲ以テ國境地帶ト認ム、兩締約國政府ハ該地帶ヲ最モ嚴重ニ境界スルノ權限ヲ保留シ且特殊ノ場合ニハ此ノ地帶ヲ十五キロメートル迄擴張スルコトヲ得國境地帶ノ居住民ハ之ヲ本條約ニ於ケル國境人（國境ニ財產ヲ所有スル居住人）ト看做スヘシ

第二節 接壤小取引及市場

一、國境地帯内ノ相互輸入ノ取引ニ於ケル左記產品ハ一日一回ノ輸入ノモノニ限り輸入並輸出

關稅及其ノ他ノ稅ヲ免除スヘシ

イ、數量ニキロ若ハニリツトル迄ヲ限度トスルモノ

一、生鮮ナル又ハ簡單ナル處理ヲナシタル肉類

一、生乳、酸性乳及「トプフアン」

ロ、數量ニキロ迄ヲ限度トスルモノ

一、穀粉類

一、生菜

一、生果(葡萄ヲ除ク)

一、食パン又ハ饅頭菓子類

前記ノ便益ハ單ニ國境地帯ノ原產品ニシテ國境人自ラ道路ニ依リ自家用トシテ輸入スルモノニ
限リ與フルモノニシテ或運送機關ニ依リ輸入スルモノニ對シテハ之ヲ除外ス

二、國境地帯ノ相互貿易ニ於ケル下記ノ產品ニシテ國境地帯生産ノモノハ國境人ノ必要程度ヲ

超過セサル數量ノモノニテ之ヲ稅關ニ申告シ且ツ關稅通路ヨリ輸入スルニ於テハ輸入及輸出稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得

- 一、天然及人工肥料、幹莖ヲ有スル亞麻及大麻、生及乾シタル秣、藁、枯木葉、苔、草根、砂礫、粘土、陶土、泥炭、石南土

關稅行政廳ハ右產品ニ對シテハ地方ノ狀況ニ依リ國境ノ監視區域ニ於ケル關稅通路外ノ道路ヨリノ輸入ヲ許可スルコトアルヘシ

- 三、穀類、採油用種子、大麻、亞麻、材木、タン(靛草川樹皮)及類似ノ農產物ニシテ製粉、製油、挽キ割、粉碎等ノ加工ヲナサムカ爲一方ノ國境地帶ヨリ他方ノ領域ニ運搬シ來タリ次ニ此ノ工程ヲ終了シタル後再輸入ヲナスモノニ對シテハ右ニ關スル取締規定ヲ保留シ互ニ輸出輸入稅ノ免除ノ取扱ヲナスヘシ、兩國關稅行政廳ハ之等ノ原產品ヨリ製造スヘキ數量及再輸出又ハ再輸入スヘキ數量ヲ必要ニ應シ協定スヘシ

- 四、國境住民ノ通商ヲ容易ナラシムカ爲一方ノ關稅領域ヨリ他方ノ領域ニ職工ノ職業用ノ爲運搬シ來タル物件ニシテ其ノ作業ヲ終リタル後返還スルモノニ對シ兩國稅關カ地方的及經濟的事由ニヨリ必要トスルトキハ該通商ノ認可ヲ與フルモノトス 職工ノ作業ハ家庭工業ノ場

合ヲモ含ミ糸及織物ニ對スル職工ノ操作ニハ染色ヲモ含マシムヘシ衣服ノ仕立ヲ目的トスル職工ノ貿易ニ於テノ關稅免除ハ該加工ニ使用ノ附屬品ニモ均シク及フモノトス

五、千八百八十五年十月二十九日協約ノ實施ニ依リ國境住民ニ許可シタル醫師及獸醫ノ處方ニ依リ隣接地ノ藥店ニ於テ購入シ携帶輸入スル調合藥竝關係地方ノ衛生法規ニ基キテ技術者ノ携帶輸入スル藥品ニシテ其ノ必要程度ニ相當スル少量ノモノニシテ關稅通路ニ依リ稅關ニ申告ヲナスモノニ對シテハ關稅ヲ免除スヘシ、急ヲ要スル場合竝土地ノ關係上必要トスル場合ニハ右輸入ハ關稅通路外ヨリナスコトヲ得、尙醫藥用調合品ニアラサル藥劑及單純ナル醫藥及化學藥ニシテ包裝ノ上ニ明瞭且精確ニ藥品名ヲ表記シ地方ノ小賣商ノ取締規則ニ適合シタルモノニ對シテハ處方箋提出ノ要求ヲナササルヘシ

六、國境地帶ニ開業スル醫師、獸醫及看護婦ハ其ノ職業ノ實行ノ爲ニハ何時ニテモ繁駕ニ依リ稅關ノ檢査ヲ受クルコトナク國境ヲ通過スルコトヲ得、又特ニ身分證明書ヲ所持スル場合ハ自轉車、自動車又ハ自動自轉車ヲ以テ自由ニ通過シ急ヲ要スル場合ハ關稅通路外ノ道路ヨリ通過スルコトヲ得、兩國關係關稅行政廳ハ右便益ノ許可ニ關シ細則ヲ協定スヘシ

第三節 國境農村ノ通商

一、接境地帯ノ他方ノ牧場ニ連行シ同日中ニ歸還スル家畜ニ對シテハ豫メ牧獸ノ頭數ヲ示シ其ノ出入ノ時刻ヲ報告スルニ於テハ文書ニ依ル通關ヲ免除シ如何ナル税金ヲモ徴收セサルヘシ
 牧獸ハ兩國ノ主務官憲ニテ家畜步行路トシテ協定セル指定路ニ依リ出入スヘシ

二、左記ノ物件ニシテ其ノ國境出入ヲ稅關ニ報告シ記錄通關手續ニ對スル擔保ノ提供ヲナシ且前記第一、第二節ノ規定ヲ遵由スルニ於テハ凡テノ輸入輸出稅ヲ免除ス

イ、檢量、交尾、去勢ヲ目的トスル家畜及獸醫ノ手當ヲ受ケ又ハ臨時運搬用ニ供スル家畜並
 臨時使用ノ農業用機械器具

ロ、二ケ年ノ規定期間輓獸ニ使用スル目的ヲ以テ「オーストリア」領域ヨリ「サムニユアン」低
 地ニ輸入スル牝牛牝牛及仔牛

三、國境ノ兩方ニ跨リ關稅線ニ依リテ農場ト居住所ト分割セラレタル所有地ヨリ生産スル牧畜
 生産物及土地生産品ハ凡テノ輸出及輸入稅並其ノ他ノ賦課金ノ免除ヲ受ケ該所有地内ニ於テ
 ハ運搬スルコトヲ得

尙該經營所ヲ出テ締約國ノ一方ノ所有地ヨリ他方ノ所有地ニ輸入スル家畜及農具並播種用種
 子ニ對シテモ亦同一便益ヲ許容スルモノトス

四、國境ノ一方ノ住民ニシテ其ノ居所ノ附近ニ所在スル他領土内ノ畑、牧場又ハ其ノ他ノ財產ノ所有者又ハ賃借人タルモノノ隣接國境地帶ノ農作ニ從事センカ爲其ノ必要ノ家畜農具並種子ヲ輸入スルトキハ凡テノ税ノ免除ヲナシ且他方領土内ノ所有財產ヨリ收穫ノ土地生産品ニ對シテハ葡萄ヲ除キ免稅輸出ヲ許容スヘシ、土地ノ狀況又ハ農作ノ性質上之ヲ必要トスルトキ並訓令ニ依リ國境人ノ往行シタル日ニ於テ歸來スルモノニ對シ規定シタル關稅保障ノ設定セラレタルトキハ豫メ稅關ニ於ケル手續ヲ了シ別ニ許可ヲ受ケ關稅通路外ノ道路ヨリ國境ヲ通行スルコトヲ特ニ許容ス、但シ家畜ハ兩國關稅行政廳ノ協定ヲ以テ指定スヘキ道路以外ヨリ歩行スルコトヲ得ス

五、隣接關稅地帶ノ耕地又ハ山林ノ開發ニ於ケル耕作又ハ植林勞働ニ勞働契約ニ依リ期節的ニ從事スル國境人ハ勞働スヘキ場所ニ到着ノ日ヨリ遅クトモ六日迄ニ一般規定ニ依リ其ノ住所ヲ再ヒ證明スルニ於テハ關稅利益保持ノ目的ヲ以テ當該官廳ノ施行スル規定ヲ保留シ何等ノ輸出輸入税ヲモ課セラルコトナク又關稅通路ニ依ルコトナク職業上必要ナル器具ヲ携帶シ關稅線ヲ自由ニ通行スルコトヲ得

此等勞働者ノ家庭ニ於テ用フル食料品ヲ運搬スル者ハ隣接國境地帶ニ往行シタル日ニ其住所

ニ歸還スル條件ノ下ニ關稅及内國稅ノ免除ヲ受ケ國境ヲ通過シ之ヲ右勞働者ニ供給スルコトヲ得

第四節 國境一般通商

一、運搬具ニ仕切ヲ作り無包裝ノ儘又ハ藁若ハ紙ニテ包ミ或ハ包裝ヲナサス袋、箱又ハ籠ニ其ノ儘容レテ輸入スル林檎、梨、木瓜、梅ニシテ「スイス」國境地帯ノ國境人ニ仕向ケラレ同地ニ於テ消費セラルモノニ對シテハ該果實ノ他方ノ國境地帯ノ生産品ナルコトノ生産原地證明書ヲ提出スルニ於テハ凡テノ輸出輸入稅ヲ免除スヘシ

左記ノ「オーストリア」國境地帯ノ原產品ニシテ「スイス」國境地帯ニ於ケル國境人ノ消費ノ爲仕向クルモノナルコトヲ證明スルニ於テハ左記稅率ニ依リ課稅スヘキコトヲ協約ス

スイス稅表番號 品 名 稅率(每キントールニ付)

一一六 樽入ノ果實酒(シードル) 法

瓦 三、一

粗燒又ハ釉藥ヲ掛ケタルモノ

六四七 嵌込用粗燒ノモノ 一、五〇

其ノ他

一、五〇

煉瓦

粗焼又ハ釉藥ヲ施シタルモノ

六五二

横溝ヲ有スルモノ又ハナキモノ

〇、八〇

縦溝ノモノ

六五二

長三十c.m.ヲ超エサルモノ

一、五〇

其ノ他

一、五〇

樽入ノ果實酒及林檎及梨ノ「シールド」ニシテ「スイス」國境地帯ニ於テ生産シ「オーストリア」國境地帯ノ國境人ノ消費ノ爲仕向ケ輸入スルモノナルコトヲ證明スルニ於テハ一〇〇キロニ付三クローヌノ課税ヲナスヘシ

關稅同盟ノ條款ヲ以テ「リエクテンステイン」公符領ノ「スイス」ト同盟セラレルル限り生産地當局ノ發給セル生産原地證明書ヲ以テ同公符領ノ原産品ナルコトヲ證明スル時ハ「オーストリア」ハ協定ニ依テ指定シタル稅關ニテ行フ輸入品ニ對シテハ左記ノ如ク取扱フ可キモノトス

一、年輸入額五〇〇キンタウ迄ノ腐熟乾酪ヲ無稅トスルコト

一、年輸入額二〇〇キンタウ迄ノ裝飾ヲ施シタル「カテール」ヲ百キロニ付一クロース一〇ベ
 ーノ課税ヲナスコト

二、生産原地證明書ヲ有スル左記ノ「オーストリア」「國境地帯原産品ニ對スル」「スイス」「國ノ輸入
 關稅率並該稅率並該稅率ノ適用ヲ受クヘキ年額ハ次ノ如ク定ム

スイス稅表番號	品名	年輸入額	稅率
---------	----	------	----

單位	單位法
單位キンタール	キンタールニ付

魚類

生鮮又ハ氷結ノモノ

八七九	淡水魚	二五〇	二、一
-----	-----	-----	-----

建築用及細工用木材

二四〇	嵌込材	四、〇〇〇	六、一
-----	-----	-------	-----

嵌込ニ仕組タル各種ノ木片

二四二	糊付セサルモノ	一、〇〇〇	一五、一
-----	---------	-------	------

二五六%

鐵ノ筐ヲ以テ組立又ハ不組立ノ樽及桶類

一五〇

二〇、一

ex 五八五

無蓋貨車又ハ船ニ積荷シタル割ラサル砂礫及砂

五〇〇、〇〇〇

免稅

ex 五八六

割栗石

五〇〇、〇〇〇

〇、〇五

ex 八八八

粗造ノ截石用石材

一〇〇、〇〇〇

〇、〇五

ex 八一七

煖爐及釜用ノ粗造ノ銅及眞鍮製ジヤット

五〇

一〇、一

「ウオラルブルグ」聯邦國生産ノ挽キ又ハ割タル建築用材木細工用材木其ノ他ノ角材（横材ヲ除ク）ニシテ「ブック」及「センマルグレテン」稅關ニ依リ「スイス」ニ輸入セラルモノニシテ生産原地證明書ヲ有スルモノニ對シテハ年額八〇、〇〇〇キンタウ迄ハ每キンタールニ付一、七〇法ノ稅率ヲ以テ課稅ス

「バツノン」、「モンタフン」、「スタンズ」並「ロデン」ノ低地方ニ於テ生産スル通常毛製ノ婦人帽子類靴下類手袋類等ヲ該品ノ見本ヲ備付タル「セン・マルグレテン」、「ブック」及「マルテンスブルク」稅關ニ於テ申告產地當局ノ發給セル生産原地證明書ヲ以テ該品ノ原產地ヲ證明シ該

見本ト符合スルニ於テハ「スイス」輸入ニ當リ左記ニ依リ課税スヘシ

一、年輸入額四〇キントウ迄ノ頭巾及靴下類ニ對シテハ每キントウ二〇〇法ノ稅率

但シ「ロデン」生産ノモノニ對シテハ年額八〇キントウ迄每キントウニ付一五〇法ノ稅率

ニ依ル

商人又ハ行商人ノ此ノ種商品ヲ携帶輸入スルトキハ稅關ニ提示スル各數量ニ對シ特ニ生産原地證明書ノ提出ヲ必要トセス若シ輸入品ノ性狀ト稅關ニ保管セル見本ト符合スルトキハ商人又ハ行商人ノ生産地ヨリ輸入シタル商品ノ全數量ハ生産地當局ノ證明ノ代ヲ充分ニナシタルモノト看做スヘシ

「オットオーストリア」又ハ「ゲオラルベルグ」生産ノ加工シタル敷石ニシテ生産原地證明證ヲ件フモノハ「スイス」輸入ニ際シテハ毎年二五、〇〇〇キントウ迄ノ數量ニ對シテハ關稅率ヲ每キントールニ付二〇^c.tsニ輕減ス該品ノ通商ニ關スル輸入稅關ハ追テ協定ヲナシ指定スヘシ

第五節 總 則

一、兩締約國ハ第十二條ニ對スル追加規定ノ施行ヲ監督シ又違反ノ場合ニ於テハ兩締約國ノ許容スル便益ヲ取消又ハ制限スルノ權限ヲ保留ス

二、本條約ニ規定セル便益ハ締約國ノ一國ノ專賣品又ハ專賣品生産目的ノ貨物ニハ適用セス
此等物品ニ關シテハ之ニ關スル施行規定ヲ保留ス

尙國境通商ニ關スル上記施行規定ハ兩締約國間ニ於テ國境通過ニ關シ既ニ設ケタル通商規定並ニ取締規定ヲ毫モ改訂セサルヘシ

第十五條ニ關スル件

兩締約國ノ一方ノ當局ニ依リ其ノ輸出ニ當リ附シタル検査證標ハ他方ノ主務官憲ニ於テハ通關證又ハ文書ノ對象物タル貨物ノ同一ナルコトノ認識ヲナス爲ニ行ハレタルモノト認ムヘシ 兩締約國ノ税關當局ハ若シ必要ノ場合ニハ更ニ検査ヲ行ヒ貨物ノ上ニ検査標記ヲ附スルノ權限ヲ有スルモノトス、旅商ノ見本品及既ニ使用シタル包装品ノ再輸出ハ必シモ輸入シタル税關ヲ經ルコトナク旅商在ラサル場合亦行フコトヲ得

第十九條ニ關スル件

兩締約國ハ仲裁裁判ノ組織及裁判手續ハ左記ニ依ルコトヲ協約ス

一、仲裁裁判ハ三名ノ委員ヲ以テ組織ス、締約國ハ他ノ一方ヨリ仲裁裁判開催ノ要求ヲ受ケタルトキハ何レモ其ノ通告ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ其ノ臣民ノ中ヨリ仲裁裁判委員

ヲ各一名任命スヘシ、右兩仲裁裁判委員ハ兩締約國ノ臣民ニ非スシテ其ノ住所及職業ヲ兩締約國ノ領土内ニ所有セサル一名ノ裁決仲裁裁判委員ヲ選任スヘシ 若シ兩締約國ニシテ八日ノ期間内ニ於テ採決仲裁員ノ選任ニ關シ協定ヲ見サル場合ハ「ヘーグ」ニ於ケル常置仲裁裁判所ノ行政委員會ニ之カ選任ヲ委任スヘシ

裁決仲裁裁判委員ハ裁判ヲ統裁シ其ノ判決ハ多數決ニ依ルモノトス

二、第一回ノ仲裁裁判ハ被告側ノ締約國ノ領土内ニ於テ次回ハ他方ノ國內ニ於テ第二回以後ハ順次各國ニ於テ交互ニ當該國ノ指定スル都市ニ開クヘシ、當該順番國ハ仲裁裁判ノ場所並裁判事務上必要ナル人員ヲ提供スヘシ

三、兩締約國ハ訴訟ニ關シ特別ノ場合ニハ其ノ都度又ハ全體ニ對シテ一回仲裁裁判ヲ行フコトヲ承認ス、之ニ關シ協定ナキ場合ハ裁判所自ラ訴訟手續ヲ決定スルモノトス、訴訟手續ハ何レノ國ニモ異議ナキ場合ハ文書ヲ以テ行フコトヲ得 此ノ場合ニハ前記第二規定ハ其ノ時ノ事情ニ必要トスル範圍ニ於テ適用スヘシ

四、仲裁裁判ノ要求ニ依ル證人及鑑定人ノ召喚及聽取ニ對シテハ兩締約國ノ各當局ハ内國民事裁判ニ於ケルト同一ノ手續ニ依リ立會ヲナサシムルモノトス、仲裁裁判所ハ其ノ要求ヲ

裁判所所在地ノ政府ニナスヘキモノトス

附屬A書ニ關スル件(オーストリア領土ヘノ輸入關稅)

第二〇二號ノ舊稅率ハ「オーストリア」國ノ「チエクオスラヴァク」共和國ニ對シ絹織物製品ノ加工貿易ニ國稅免除ヲ許容スル期間中適用スヘシ

若シ該加工貿易ニシテ徹廢セラルル場合ハ左記協定稅率ヲ稅表番號第二〇二號ノ織物ニ對シ適用スヘシ

每百キロニ付

單位クローヌ

二〇二 別號ニ掲ケサル織物

a 不加工品ニシテ無地ノモノ

一、染色セサルモノ

七〇〇―

黒染シタルモノ

七五〇―

二、其ノ他ノ染色又ハ糸染ノモノ

八五〇―

三、捺染シタルモノ

一、〇五〇―

b 加工シタルモノ

一、染色セサルモノ

八五〇一

黒色ニ染メタルモノ

九〇〇一

二、其ノ他ノ染色又ハ糸染ノモノ

一、〇〇〇一

三、捺染シタルモノ

一、二〇〇一

C 刺繡シタルモノ

一、四〇〇一

附 屬 D 書

「スイス」「ヴオラルベルグ」間ニ於ケル刺繡ノ

加工貿易ニ關スル取極

取締規定ヲ保留シ輸出又ハ輸入ノ行ハレタル日ヨリ遅クトモ六ヶ月ノ期間内ニ於テ再輸出又ハ再輸入ヲナスノ條件ノ下ニ

「ヴオラルベルグ」ニ於テ刺繡ヲナシ又ハ刺繡ト仕上工程ヲ同時ニ行ヒ又ハ折疊ト切抜キヲ同時ニ或ハ唯折疊若ハ切抜ヲノミナサムカ爲「スイス」ヨリ輸入スル織物及縁縫ヲナシタル手巾又ハ

縁縫ヲナサル手巾

同シク漂白ヲナサムカ爲「スイス」ヨリ「ヴオラルベルグ」ニ輸入スル鎖縫縁刺繡布(幕及類似品)刺繡ヲナサムカ爲「ヴオラルベルグ」ヨリ「スイス」ニ輸入スル織物及縁縫ヲナシタル手巾及縁縫ヲナササル手巾

同ク漂白ヲナサムカ爲「ヴオラルベルグ」ヨリ「スイス」へ輸入スル浮出縫箔刺繡布ニシテ次に再ヒ發送原地ニ送還スルモノニ對シテハ凡テノ輸出輸入税ヲ免除スヘシ又兩國何レモ之カ取扱ニ關シ特別ノ手數料ヲ徴收セサルコトヲ協約ス

「スイス」及「ヴオラルベルグ」ニ居住スル商人又ハ營業ヲナス商店ハ該加工貿易ノ便益ニ關シテハ何レノ國ニ於テモ全ク平等ニ均霑スルモノトス、之等商店及商人ノ兩締約國ノ何レカノ國ノ所屬民タルノ行爲ト又ハ「スイス」或ハ「ヴオラルベルグ」ニ居住シ委託代理ノ資格ヲ以テナス行爲ニハ事實ニ於テ何等ノ差別ナク特ニ税關手續上ノ免許ニ關シテハ同等ノ取扱ヲ受クルモノトス

刺繡ノ加工貿易ニ關シ規定セル關稅免除ハ刺繡材料ニモ亦均霑セシムヘシ

「スイス」ヨリ「ヴオラルベルグ」ニ「ヴオラルベルグ」ヨリ「スイス」ニ加工貿易制度ニ依リ輸出

シタル刺繡材料品ニシテ使用セラレサリシ者ハ關稅免除ニ依リ再輸入スルコトヲ得 刺繡用材料ノ補足運送品ヲ必要ニ依リ分割發送スル場合ニ於テモ均シク兩國共關稅ノ免除ヲ與フルモノトス工作上ノ過失ニ依リ生シタル(端切レ)布ヲ全部組合セ又ハ手分組合セテ修繕センカ爲返還スルモノニ對シテ亦刺繡ノ加工貿易ニ施行スル制度ヲ適用スヘシ、兩締約國ハ加工貿易中ニ於テ輸入シタル上再輸出スル刺繡工作ニ附帶スル型紙圖案紙ニ亦關稅免除ノ許容ヲナスヘシ

附屬 E 書

獸疫豫防ニ關スル協定

第一條 國境地方(國境地帶及自由地帶)ノ居住民ハ何時ニテモ農事ニ使役シ又ハ其ノ財産ノ管理ヲ行ヒ又ハ交尾、去勢、檢量、訪問並獸醫ノ診療ヲ受ケンカ爲所有ノ家畜ヲ連行シテ兩締約國ノ國境ヲ通過スルコトヲ得

兩締約國ハ右交通ニ關シ出來得ル限リ簡便規定ヲ設クヘシ

第二條 兩締約國ハ互ニ當該官廳ノ發給セル健康證明書ヲ伴ヒ放牧ノ爲ニ連行スル動物ニ對シ

ヲハ再輸出又ハ再輸入ノ保證ノ下ニ國境通過ヲ許可スヘシ

約國ハ各他方ノ原産動物ノ入牧ヲ許容シ得ヘキ地方ヲ推定シ同時ニ放牧季節ノ最長期間ヲ凡テ通報スヘシ

第三條乃至第七條ノ規定ハ季節放牧ニ對シテ適用スヘシ

第三條 家畜ノ國境通過ニ關シテハ之ヲ入牧セントスル土地ノ市町村長ニ宛テ其ノ通過二十日前ニ届出ツヘシ

届出書ニハ左記ノ事項ヲ記載スヘシ

イ、家畜所有者ノ住所氏名

ロ、種類 類

ハ、種別ニ依ル頭數

ニ、届出當時ニ於ケル家畜ノ滞留場所

ホ、家畜ヲ放牧スヘキ牧場名並ニ町村名

ヘ、入牧ノ爲家畜ノ經由スヘキ順路並ニ目的地ニ到着ノ爲選ヒタル家畜移動ノ方法（徒步ニ依ルカ又ハ鐵道ニ依ルカ等）

ト、目的地ノ國ノ輸入税關並國境到着ノ日程

市町村長ハ之ヲ受理シタル後直ニ各締約國ノ指定スヘキ主務官廳ニ提出スヘシ

第四條 家畜ノ國境通過ハ何時ニテモ關稅所在地ヨリ又ハ可成稅關ニ接近セル所ヨリ行フヲ原

則トス

家畜ノ輸入ニ就テハ其ノ通過前五日以内ニ於テ獸醫官ノ作成セル檢疫證明書ヲ以テ其ノ健康並ニ少クトモ四十日以來身體ニ傳染性病疫ナキ旨ノ證明ヲ申告當時ノ生産地町村ニテ受ケタルコトヲ證明スルヲ要ス

炭疽病及其ノ症狀、牛類ノ出血性敗血症、顆粒腺炎、豚ノ傳染病及狂犬病並結核症ノ發生ノ際ニハ若シ家畜ノ生産地ノ之等病疫ノ指定地ニ這入ラサル場合ハ健康證明書發給ノ妨トナラス、但シ獸醫官ハ此等病疫ノ發生ニ付證明書ニ記入スヘシ、又同一農家ノ群畜中ニ於ケル結核症ノ檢證ハ入牧許可ニ對スル妨トナラス

國境ニ到着スル家畜ハ獸醫官ノ檢疫ヲ受クルヲ要シ獸醫官ハ之ニ添附ノ書類ヲモ檢閱スヘシ添附書類ニシテ適法ニ作成セラレ且檢疫ノ結果凡テノ點ニ於テ健康ニ異狀ナキ場合ハ獸醫官ハ動物ノ輸入許可ヲ提案シ健康證明書ヲ主務官廳ニ提出スヘシ

第五條 同一人ノ所有ニ屬シ同一ノ町村ニ連行スル家畜ニ對シテハ列記式ノ證明書ヲ交付スルコトヲ得其ノ他ノ場合ニハ各別ノ證明書ヲ交付スヘシ

第六條 家畜所有者ハ兩國ノ稅關當局ニ對シ其ノ動物ノ明細目錄ヲ二通作成シ之ニ署名シ提出スヘキモノトス。若シ牛ニ關スル場合ハ其ノ種類ノ外其ノ性年令及特徵及特質其ノ他懷胎狀態ニ關シ記載スヘシ

第七條 家畜ノ歸還ニ際シテハ獸醫官ハ健康證明書ヲ家畜ノ連行者ニ返付スヘキモノトス、獸醫官ハ豫メ輸出ノ日附家畜ノ健康狀態並ニ家畜ノ所在地ノ獸疫ニ關シテ該證明書ニ記述スヘシ 若シ放牧期間中群畜中ニ流行性病疫發生シ又ハ家畜ノ歸還ニ際シ通過スヘキ土地ニ流行性病疫ノ發生ヲ見タルトキハ生産國ヘノ歸還ハ止ムヲ得サル例外ノ理由(飼料ノ不足時候ノ不良等)ノ正當ニ立證セララルルニ非サレハ許容スルコトヲ得ス、兩締約國當局ハ後者ノ場合ニ於テ凡テノ獸疫傳染豫防ニ對シ採ル可キ適當ノ處置ニ關シ協定スヘシ

第八條 規定健康證明書ヲ有スル家畜ノ一日中ニ歸還スル日常ノ入牧ハ之ヲ許可スヘシ、締約國ハ各其ノ領土ヨリ生産スル家畜ノ同一物ナルコトノ證標ヲナス爲ニハ其ノ耳ニ金屬ノ證標ヲ附シ證明スル規定ヲ設クル權能ヲ保留ス

家畜ノ所有者ハ日還入牧ノ許可ヲ受クヘキ凡テノ動物ニ付精確ナル記述ヲ以テ明細目錄ヲ作成シ税關官吏ニ提出スヘシ

入牧期間中家畜ハ入牧地ニ於テ時々獸醫官ノ檢疫ヲ受クヘシ

第九條 流行性、獸疫發生シ又ハ發生ノ虞レアル場合ハ兩締約國ハ各自獸疫取締令ノ範圍ニ於テ前條規定ノ交通ヲ制限スルコトヲ得

第十條 兩締約國ハ前條ニ於テ取極メタル規定ノ外牛、羊、山羊、豚、馬、驢馬、騾馬類ニ屬スル動物ノ本體、生産品及獸疫、傳染ノ發生原因トナルヘキ物件ノ通商ニ關スル獸疫ノ豫防法ニ對シテハ各自國法律ヲ施行スルコトヲ得

締約國ノ一方ノ領土ヨリ他方ノ領土ニ輸入セラルル家畜ハ特ニ獸醫官ノ檢疫ヲ受クヘシ、且該家畜ハ健康ヲ證明シ少クトモ四十日以前以來何等ノ傳染性病疫ノ流行ヲ檢證セラレサリシ土地ヨリ連行シタルコトヲ證明スヘキ獸醫官ノ發給セル健康證明書ノ所持ヲ必要トス

第十一條 兩締約國ノ一方ノ領土ヨリ生産ノ家畜類ニシテ又生産國ノ國法ニ基ク健康證明書ヲ伴ヒ依テ生産地方ハ凡テノ獸疫地ヨリ除外セラルルコトヲ證明シ又若シ該動物ニシテ傳染性病疾ナク現ニ國境ニ來著シタルトキ申告ノ正當責任ヲ以テ行ハレタル場合ハ何等ノ制限ヲ受

クルコトナク他ノ一方ノ領土ヲ直接通過ニ依リ經由スルコトヲ得、尙右ニ對スル責任機關ハ通過ヲ許可シ又ハ仕向國ノ家畜ノ輸入ヲ許可スルコトノ保證ヲナスヘキモノトス

傳染病菌ノ培養ニ使用スヘキ動物ノ本體、生産物及物件ニシテ鉛封ヲ施セル貨車ニ依リ運送セララルルニ於テハ締約國ノ一方ノ領土ヨリ他方ノ領土ヲ何等ノ拘束ヲ受クルコトナク直接通過ニ依リ經由スルコトヲ得

第十二條 第三國ヨリ生産ノ各種ノ家畜ニシテ兩締約國ノ一國ニ仕向ケラレ又ハ其ノ領土ヲ通過スヘキモノノ他ノ一國ヲ直接通過スル場合ニ對シテハ他ノ一國ニ於テハ左記ノ條件ニ基キ之ヲ許容スヘシ

イ、通過許可申請ハ豫メ公文書ヲ以テ當局官廳ニ提出シ且家畜ノ種類、頭數、生産地、仕向地、仕出地、出發ノ日附並到着ノ年月日ヲ表示スヘキコト

ロ、家畜ハ官憲發給ノ健康證明書ヲ伴フコト

ハ、通過ヲ行ハントスル通過締約國ノ領土入境ニ當リ家畜ハ獸醫官ノ檢疫ヲ受クヘキコト若シ檢疫ノ結果傳染性病疾ノ診斷ヲ受ケタル場合ハ全部ノ輸送ヲ撤回スルコト

ニ、若シ兩締約國ノ一國ニ於テ通過ヲ許シタル運送動物ノ他ノ一國ヲ通過スヘキ場合ニハ他

ノ一國ニ於テハ動物ノ健康狀態ノ如何ニ拘ラス其ノ通過ヲ許可スルコト

ホ、若シ通過ヲ希望スル國ノ原産家畜ニシテ獸疫ノ理由ニ依リ通過ヲ禁止サレタル場合ニハ通過ニ關シテ同一ノ規定ヲ適用スルコト

締約國ノ一國ノ領土ニ仕向ケ又ハ其ノ領土ヲ通過スヘキ第三國ニ於テ生産スル獸體、其ノ生産物及物件ニシテ傳染病菌培養ニ使用スヘキモノハ鉛封ヲ施シタル貨車ヲ以テ運送セラレ且通過國ノ通過ヲ許可シ仕向國ノ輸入ヲ許可スルコトノ確定セル場合ハ制限ナク他ノ一國ノ領ヲ經由シ直接通過ヲナスコトヲ得

兩締約國ハ通過物件ニ對スル禁止及制限ニ關シテハ其ノ都度電信ヲ以テ互ニ通報スヘシ

第十三條 兩締約國ハ獸疫豫防ニ關シ自國法律ノ趣旨ニ從ヒ凡テ必要ナル處置ヲ採ル事ヲ協定ス兩締約國ハ動物ノ運送ニ使用スル物件(貨車等)ノ消毒ニ對シテハ充分ノ監督ヲ拂ヒ實行セシムルコトヲ保障ス

第十四條 兩締約國ハ自國家畜類ノ健康ノ保全ニ對シ互ニ協力スヘシ右ニ關シ發行セル報告及公報ヲ敏速ニ少トモ十四日毎ニ交換スヘシ

若シ締約國ノ一國ノ領土ニ於テ牛ベスト又ハ流行性肺炎獸疫ノ發生シ又ハ國境地帯ニ於テ爲

口瘡性ノ熱病ノ發生シタル場合ハ他ノ一國ノ中央主務官廳ニ直ニ直接病疫ノ傳染狀態ニ付電信ヲ以テ通報スヘキモノトス

尙國境地帯ノ兩締約國行政當局ハ傳染性病疫ノ其ノ管轄區内ニ發生シタル場合ハ之ニ關スル防疫施策ニ付直接協議スヘシ

締約國ノ一方ノ領土ニ生産スル家畜ニシテ他方ノ國境ヲ既ニ通過シタルトキ傳染性病疫ヲ檢證セラレタル場合ニ該事實ニ付獸醫官ノ援助ヲ以テ調書ヲ作成スヘシ、調書ノ寫一通ハ遲滞ナク生産國ノ主務官廳ニ送達スヘシ

第十五條 本協約ノ規定ハ「リエクテンステイン」公爵領ノ「スイス」ト關稅同盟條款ヲ以テ締約國タル限リ該領土ニモ均シク適用ス

瑞西伊太利通商條約

(千九百二十三年)

「瑞西、伊太利」通商條約

千九百二十三年一月二十七日議定

千九百二十三年二月八日「スイス」ニ依リ批准

千九百二十三年十二月九日「イタリー」ニ依リ批准

千九百二十三年二月八日以降效力發生

第一條 兩締約國ハ輸出輸入並通過貿易ニ關シ最惠國ノ權利及取扱ヲ相互ニ保障ス

依テ兩締約國ハ各前記ノ關係ニ基キ特ニ本條約ニ規定シ又ハ規定ナキ關稅率ノ保證並徵收保稅倉庫（之ニハ自由港、自由地帶又ハ私設保稅倉庫ヲ含ム）内國稅、通關、手續、稅關ノ取扱及國庫縣郡及市町村ノ收入ノ爲徵收スル消費稅ニ關シ第二國ニ許容シ又ハ將來許容セントスル凡テノ特權並便益ヲ無償ニテ他ノ一國ニ對シテ直ニ均霑セシムルコトヲ協約ス

但シ陸境通商ヲ容易ナラシムカ爲他ノ接境國ニ對シ現ニ許容シ又ハ將來許容スヘキ便益並關稅同盟ノ結果既ニ締盟國ノ一國ニ依テ議定シ又ハ將來協定スヘキ便益ヲ除外ス

第二條 兩締約國ハ輸入輸出又ハ通過ノ何レカノ禁止又ハ制限ニ依リ相互ノ貿易ヲ阻害セサルコトヲ保證ス

但シ左記ノ場合ニハ之ヲ除外ス

- 一、異常時ニ於ケル軍需品ニ關スル場合
- 二、公安ヲ保持スルノ理由ニ基ク場合
- 三、衛生警察及動植物ノ疾病害虫ノ防禦又ハ其ノ他一切ノ有害物ヲ防止スルニ必要ナル取締ノ場合

四、政府ノ專賣ニ關スル場合

第三條 「スイス」生産又ハ製造品ニ對スル「イタリー」ニ於ケル輸入税ハ本條約附屬A書ノ税率表掲記ノ税率ニ依リ又「イタリー」生産又ハ製造品ニ對スル「スイス」ニ於ケル輸入税ハ本條約附屬B書ノ税率表掲記ノ税率ニ依リ課税ヲ行ヒ右附屬書規定ノ税率ヲ超過スルコトヲ得ス

尙兩國間ノ通商ニ於ケル輸出税ハ附屬B及D書規定ノ税率ヲ超過スルコトヲ得ス

第四條 若シ締約國ノ一國ニシテ第三國ノ生産物ニ對シ締約國ノ他ノ一國ノ生産又ハ製造ノ同種品ニ對シテ適用スルヨリモ高率ノ關稅ヲ課シ又ハ第三國ノ一國ノ貨物ニ對シ締約國ノ一國

ノ同種貨物ニ施行セザル輸入ノ禁止又ハ制限ヲ適用スル場合ハ當該國ハ締約國ノ他ノ一國ノ生産品ニ適用スル最低稅率ニ對シ又ハ其ノ輸入許可ニ對シ必要ニ應シ兩締約國政府間ニ協定セラルヘキ主務官廳ノ發給スル生産原地證明書ノ提出ヲ要求スル權限ヲ有スヘシ

生産原地證明書ノ交付ニ對シ又ハ輸入國ヨリ要求セラルヘキ領事ノ證明ニ對スル手数料ハ一件ニ對シ一法ヲ超過スルコトヲ得ス

貨物ノ生産原地證明又ハ該證明書ニ關シ疑義ヲ生シタル場合ハ輸入國ノ要求ニ依リ兩國協定シテ指定セル當該機關ノ監督ノ下ニ輸出國ニ於テ之カ檢證ヲナスヘキモノトス

第五條 兩締約國ノ何レカノ國ニ於テ或種貨物ノ組織及性狀ニ關スル特殊條件ノ具備ニ依リテ輸入許可ヲ與フヘキトキハ此等ノ規定ヲ施行セントスル國ノ政府ハ右ニ關スル凡テノ規則並一般規定ノ手續ニ關シ他ノ一國ノ政府ノ了解ヲ得ヘキモノトス、此ノ場合ニハ兩締約國ハ協調ヲ以テ上記條件ノ具備ノ檢證ニ關シテハ國境ニ於ケル取締手續ヲ輸出國當局ニ依リテ正當ニ設定セラレタル證明ニ依リテ簡便ナラシム様審議スヘシ、此等證明書ノ提出ヲ以テ之ヲ是認スル場合ニ於テモ輸入國ハ其ノ正確ヲ審査シ又貨物ノ同一ヲ檢査スルノ權限ヲ保留スヘシ此ノ種ノ協定ハ稅關機關ノ貨物ノ分類上執行スル檢査ニ對シテハ何等ノ制限ヲ加フルコトヲ

得ス

第六條 絹及絹製又ハ絹入交織ノ各種ノ物品ニシテ漂白、染色、染換、捺染練上又ハ其ノ他ノ工程即チ仕上加工ヲナサムカ爲締約國ノ一方ヨリ他ノ一國ニ輸入シ次ニ加工後輸出國ニ再輸入スルモノニ對シテハ凡テノ輸出輸入税ヲ免除ス

第七條 兩締約國ハ他ノ一國ニ於テ生産スル凡テノ藥材及製藥ニ對シテハ特ニ衛生保健ニ對スル必要ノ許可ナクシテ相互自國領土ニ輸入スルコトヲ承認ス但シ此ノ場合ニハ兩國間ニ協定セル取締規定ヲ適用スヘシ

凡テ調合藥ハ各容器ニ左記ノ事項ヲ精確ニ表示セル貼札ヲ附スヘシ

一、製藥ニ含有スル品名(醫藥學上呼稱ノ慣例ニ依ル)

二、前記物品ノ分量

右藥材及製藥ニハ血清藥、毒藥、ワクシン及其ノ類似品ハ之ヲ除ク

兩締約國ノ一國ヨリ他ノ一國ニ輸入スル製藥ハ他ノ一國ニ於テハ原則トシテ内國産ノ製藥ト同一便益ノ取扱ヲ享クヘシ

第八條 兩締約國ハ通過ニ依ル各種ノ貨物ハ直接通過スルモノ又ハ其ノ通過中荷卸庫入及再ヒ

荷積ヲナスモノト雖凡テノ通過税ヲ互ニ免除スヘシ

兩締約國ハ通過ニ對シ其ノ障碍トナルヘキ諸般ノ手續ヲ強要シ又ハ其ノ制限ヲ加ヘサルコトヲ保障ス

第九條 總量ニ依リ課税スヘキ巨大重量ノ貨物ヲ受容器ノ据付ナキ貨車ニテ固定又ハ移動式ノ「デシヤホダーヂユ」又ハ其ノ他ノ裝置ヲナセルモノニ積込タルトキ該貨物ノ通關ヲナス場合ハ此等裝置目的ノ明カニ此ノ種貨物ノ運送ニ貨車ヲ充當シ且運送中積荷ヲ保全セムトスルノ外ニアラサルコトヲ認メラレタルモノニ對シテハ「デシヤホダーヂユ」又ハ其ノ他ノ裝置ノ重量ヲ加算セスシテ課税ノ決定ヲナスモノトス右ノ場合ニ於テハ「デシヤホダーヂユ」又ハ其ノ他ノ裝置ハ貨車全體ノ部分ト認メ規定ニ依ルヘシ

但シ移動式ニ依リ貨車ニ据付タル「デシヤホダーヂユ」又ハ其ノ他ノ裝置ニシテ貨車ヨリ分離シタル後何等カノ使用ニ堪ヘルモノナル場合ハ税關ハ該品ノ別途輸入セラル際ニ課スヘキ税額ニ相當スル擔保ヲ提供セシムル權限ヲ保留スヘシ

第十條 兩締約國ハ或種貨物ノ生産、製造又ハ消費ニ對スル課税ヲ締約國ノ他ノ一國ヨリ輸入スル貨物ニ對シ自國內ノ生産品ニ課スルヨリモ過重又ハ高率ノ税ヲ賦課スルコトヲ得ス

第十一條 兩締約國ハ各如何ナル品目ニモ亦如何ナル事由ニ依ルモ他ノ一國ノ承認ナク輸出ニ

對スル獎勵金ヲ交付スルコトヲ得ス

但シ貨物ノ内國ニ於テ生産又ハ製造ノ爲使用セラシタル物品ニ對シテ課シタル關稅竝同一貨物ノ生産及製造ニ對シ使用セラレタル物品ニ對シ課シタル内國稅ハ上記關稅又ハ内國稅ヲ課セラレタル物品ヲ以テ製造シタル貨物又ハ上記ノ課稅ヲ受ケタル物品ノ輸出ニ當リ一部又ハ全部ノ戻稅ヲナスコトヲ得

第十二條 政府ノ專賣品タル物品竝該專賣品ノ製造原料品ニ對シテハ内國生産ノ同種物品又ハ原料品ニ對シテ課稅ヲナササル場合ト雖專賣保障ニ對スル輸入附加稅ヲ課スルコトヲ得但シ右課稅ヲ受ケタル物品ノ規定期間内ニ於テ專賣品以外ノ製造セラレタルコトヲ證明スルトキハ本稅ノ拂戻ヲナスヘシ

第十三條 兩締約國ハ他ノ一國ヨリ輸入ノ製造稅又ハ其ノ他ノ内國稅ヲ課セラルル物品又ハ該内國稅ヲ課セラルヘキ原料ヲ以テ製造シタル物品ニ對シテハ内國稅ノ負擔率ニ相當スル關稅ヲ課スル權限ヲ保留スヘシ

第十四條 「イタリ」ニ於テ金、銀、「プラチン」ノ工作品（裝身具、金銀細工品、寶玉細工品、懷

中時計又ハ時計側等）ニ對シ強制検査ヲ施行スル場合ニモ「スイス」ヨリ輸入スル同種工作品
ニ對シテハ「イタリー」ノ製品ニ對スルヨリ高率ノ稅ヲ賦課シ又検査手續ヲ嚴重ニスル事ナシ

第十五條 兩締約國ハ兩國ヲ聯絡スル道路ノ主要通路ニハ關稅徵收ニ關シ又通過貿易路トシテ
認メラレタル通路ニハ通過手續ノ取扱ニ關シ正當ニ認可セラレタル國境稅關ヲ設置シ維持ス
ルコトヲ協約ス

各種貿易上必要ナル通關上ノ手續ニ關シテハ兩國共出來得ル限リ簡便迅速ナラシムヘシ

第十六條 國境ニ於ケル通過ヲ容易ナラシメンカ爲國境ノ兩側十キロメートルノ地帶内ノ土地
ヨリ生産スル左記ノ物件ニシテ他國側ノ地帶内ノ住民ノ生産シテ輸入スルモノニ對シテハ互
ニ輸入輸出又ハ通過稅ヲ免除ス

束又ハ穗ノ穀物

乾草葉及飼料用綠草

無包裝又ハ單ニ口ヲ開キタル囊又ハ籠ニ入レタル生果及其ノ他ノ生ノ葡萄

生 菜

左記ノ物品ニ對シテ亦免稅ヲナスヘシ

肥料、沼澤ノ泥土、塵埃、播種用種子、苗、棒桿、葡萄樹ノ支柱、勞働者ノ日用食料品動物
並各種農業用具

但シ凡テ該土地ノ耕作ニ使用スル之等ノ物件ニ對シテハ取締法規ヲ設ケ違反ノ場合ニハ之ヲ
處罰スルノ權限ヲ保留シ又動物及農業用具ニ對シテハ再輸出又ハ再輸入ノ義務ヲ負擔セシム
ヘシ

他國內ニ居住スル之等土地ノ所有權者又ハ耕作者ハ其ノ財産ノ利用ニ對シテハ當該國臣民ニ
施行スル行政上又ハ警察上ノ諸法規ニ支配セララルル條件ノ下ニ該土地ニ居住スル内國臣民ト
同一ノ利益ヲ享受スルモノトス

第十七條 兩締約國ハ規定期間内ニ於ケル再輸出ヲ條件トシ又取締規定ニ基キ違反ノ場合ハ之
ヲ處罰スルノ權限ヲ保留シ次ニ述フル規定ニ準據シテ「アルプス」牧場ニ入牧ノ爲又冬越ノ爲
或ハ夏季放牧ノ爲兩締約國ノ一國ノ領土ヨリ他ノ領土ニ運行セララルル動物ニ對シテハ互ニ輸
出及輸入税ヲ免除スヘシ

兩締約國ハ締約國ノ一方ヨリ他方ニ前記目的ヲ以テスル輸入許可ニ關スル條件ニ關シ協調ヲ
以テ決定スヘシ

第十八條 兩締約國ハ締約國ノ一國ヨリ他ノ一國ニ單ニ人又ハ貨物ヲ運搬スル目的ヲ以テ國境ヲ通過スル各種ノ運搬用物件（自轉車、自動車、自動自轉車ヲ含ム）竝動物ニ對シテハ六月ノ期間内ニ之ヲ再輸出又ハ再輸入ヲナシ且同一物件ノ證據ノ提示ヲ條件トシテ免稅ノ取扱ヲナスヘシ上記運搬用物件ニ有スル運搬中使用ノ繫駕及附屬品ノ假輸入ニ關シテ亦同一條件ノ下ニ許可スヘシ

前項掲記ノ運搬用物件ニシテ締約國ノ一國ヨリ他ノ一國ニ人又ハ貨物ヲ運送セルモノハ其ノ歸還ニ當リ新ニ積載物件ヲ有スル場合ト雖該物件ノ積載場所ノ如何ニ拘ラス規定免稅ノ請求權ヲ失ハス

各種引越ノ車輛並柵ハ道路ヨリ又ハ鐵道ニ依リ國境ヲ通過スル場合ニ於テモ本條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第十九條 兩締約國ハ十二ヶ月ノ期間内ニ再輸出又ハ再輸入ヲナシ且同一物ノ證據ヲナスニ於テハ左記ノ物件ニ對シ互ニ凡テノ輸出及輸入稅ヲ免除スルコトヲ規定ス

一、修繕ヲ目的トスル物件

二、關稅ヲ課セラル可キ見本品（旅商ノ見本品ヲ含ム但シ食料品、飲料及煙草ヲ除ク）

三、組立、試験、修理又ハ其ノ他類似ノ作業ヲ完成スル爲「イタリー」ヨリ「スイス」ニ又ハ「スイス」ヨリ「イタリー」ニ送付シ若ハ携帶輸入スル機械器具

四、試験ノ爲兩國ノ一方ヨリ他方ニ送ラルル部分品（例ヘハ機械ノ台ニ使用スヘキ木材等）

五、鑄物工場ニ使用スル木又ハ其ノ他ノ材料ニテ製造スル型

兩締約國ハ六ヶ月ノ期間内ニ再輸出又ハ再輸入ヲナシ且同一物ノ立證ヲナスニ於テハ左記ノ物件ニモ凡テ輸出入税ヲ免除スヘシ

物件ヲ填充シテ再輸出センカ爲空虚ニテ輸入シ又ハ物件ヲ填充シテ輸出シタル後空虚ニテ再輸入スルモノニシテ既ニ使用シタル標記ヲ有スル袋、箱、樽（木、鐵、土又ハ其ノ他ノ材料ニテ製シタルモノ）籠、大瓶及其ノ他ノ類似ノ容器

第十五條ノ追加規定ニ掲ケタル税關ハ本條約ノ施行ト同時ニ本條ノ掲記ノ物件ノ假輸入ヲ其ノ長ヨリ遲滞ナク許可スヘキ必要ノ權限ヲ具備スヘシ

第二十條 兩締約國ノ一國ヨリ他ノ一國ニ發送セラレ未タ税關ニ藏置セラレタル貨物ハ荷受人（名宛人）ヨリ其ノ引取ヲ拒絕セラレ又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ發送原地ノ荷出人ニ返送ノ必要ヲ生シタル場合ハ税關ニ於テ已ニ之カ検査ヲ行ヒ又關稅ヲ徵收シタル場合ト雖輸入税不

納ノ儘又ハ既納ノ關稅ノ拂戻ヲ受ケ該貨物ノ到着セルトキト同一狀態ニ於テ再輸出スルコトヲ得

第二十一條 兩締約國ノ一國ノ貿易業者製造業者及其ノ他ノ產業者竝此等ノ旅商ハ最惠國協約ヨリ生スル便益ヲ享受シ他ノ一國ニ於テハ自國當局官憲ノ發給セル身分證明書ヲ提出シ當該國ノ領土内ニ於ケル規定ノ手續ヲ了シ自己ノ商業用工業用又ハ其ノ他ノ事業ノ爲買入ヲナシ又商品ヲ職業用或ハ工業用トナシ又ハ轉賣スル人又ハ商社ニ於テ注文ヲ聚集スルコトヲ得且右ノ場合ニハ如何ナル名目ニ於テモ課稅ヲ行ハサルモノトス、此等旅商ハ當該國ノ自國旅商ニ許可セラレタル場合ノ外見本又ハ雛形(商品ニアラサル)ヲ携帯スルコトヲ得ヘシ

前項規定ノ身分證明書ハ附屬E書ニ規定スル書式ニ依リ作成スヘシ兩國ノ一國ニ於テハ他ノ一國ニ於テ發給セラレタル該證明書ノ提出ニ對シ前項ノ規定ニ基ク賣買行爲ヲ當該國ニ於テ許可セル證明書ヲ新ニ旅商ニ交付スヘシ

兩締約國ハ巡廻工業者行商人及商工業ヲ營マサル所ニ於テ注文聚集ヲナスモノニ對シテハ前記規定ノ適用ヲ行ハス且之ニ關シテハ自國法律ノ完全ナル自由ヲ保留ス

第二十二條 兩締約國ハ兩國ノ法令ヲ以テ定メタル例外及制限ヲ除キ締約國一國ノ法令ニ依リ

許可設定セラレタル凡テノ匿名會社組合商工業會社及金融會社(公私設ノ保險會社ヲ含ム)ニ對シテハ凡テ最惠國ノ取扱ヲ保證シ他ノ一國ノ領土又ハ領有地ニ之カ設置權其ノ支店ノ創立權及其經濟行爲ノ實行權並其凡テノ他ノ權利及原告若ハ被告トシテノ訴訟權ヲ單ニ當該國及其ノ領有地ノ法律(財政法律ヲ含ム)ヲ遵守スルノ條件ノ下ニ相互ニ之ヲ認ムルコトヲ協約ス

第二十三條 本條約(附屬A書乃至F書ヲ含ム)ノ解釋ニ關シ異議ヲ生シ兩締國ノ一國ヨリ仲裁裁判ニ該紛議ヲ附サムコトヲ要求シタル場合ハ他ノ一國ハ之ニ同意スヘキモノトス、該紛議ノ條約ノ解釋ニ關スルモノナルヤヲ認識スヘキ先決問題ニ關シ亦同シ仲裁裁判ノ判決ハ強制執行ノ效力ヲ發生スヘシ

第二十四條 本條約ハ千九百二十三年二月二十日ヨリ其ノ效力ヲ發生スヘシ之ニ關スル批准ハ兩國共ニ一旦立法上ノ手續ヲ完了シタル後「ベルン」ニ於テ交換スヘシ

本條約ハ其ノ效力發生後一年ノ期間ニ對シ締結ス、但シ該期間滿了前六ヶ月間ニ於テ本條約ノ破棄ノ通告ヲナササルトキハ協約ノ默認更新ヲ以テ未定期間ヲ延長スヘシ本條約ハ如何ナル場合ニ於テモ破棄ノ通告ヲ受ケタル後六ヶ月間ハ其ノ效力ヲ有スルモノトス

右ノ證トシ兩締國全權委員ハ左ニ署名關印スルモノナリ

「スリツク」ニ於テ千九百二十三年一月二十七日此ノ正本ニ通テ調製ス

アルフンツト、

フレリ

エルネスト、

ロール

エルネスト、

ウエテール

エ、

ガスマン

ルシオク

アンゼロ・デイ、

ノラ

エム、

カルユクシ

ヂ、

シルヴェストク

エ、

マレスカルチ

(附屬 A, B, C, D 書譯文省略)

附 屬 F 書

追加施行規定

第二條ニ關スル件

兩締約國ハ本日協定シタル通商條約第二條第一項ニ設定セル原則ヲ最モ公正迅速ニ實施スル目的ヲ以テ其ノ禁止又ハ制限ノ事由トナルヘキ例外的事情ノ存續ノ絶對必要ナラサル限り如何ナル輸入輸出及通過貿易ノ禁止又ハ制限ヲモ維持シ又ハ制定セサルコトヲ協定ス

第三條ニ關スル件

兩締約國ハ相互ニ最惠國待遇ヲ凡テ保障シ輸出輸入稅ヲ金貨ニテ徵收スル權限ヲ保留ス但シ兩締約國ノ何レカノ國ヨリ關稅ノ納入ヲ金貨ニテナス可キコトヲ要求セラレタル場合ニ該稅金ヲ自國ノ紙幣ニテ納入スルコトヲ得但シ此ノ場合ニハ右紙幣ノ當時ノ價格ノ低下ニ伴フ打歩ヲモ納入スヘキモノトス

第十五條ニ關スル件

兩締約國ハチアソ・スタジオネ、「ボンテ・チアソ」、「ルイノ」及「ドモドツサ」ニ於ケル「イタリ」稅關及「スタジオネ」、「チアソ・ストラダ」、「ルイノ」及「ブリグエ」ニ相當スル「スイス」稅關ハ各種貿易ニ於ケル貨物ノ通關竝稅關ノ執務上ニ關スル各般ノ稅務法規ノ施行ニ必要ナル權限ヲ保持セシムヘキコトヲ協約ス、但シ「シムブロン」、「ブリゲ」及「ドモドツサ」間ノ鐵道沿線ニ

於テ取扱フヘキ關稅事務ニ關シ規定セル千九百六年三月二十四日附協約ハ其ノ施行ヲ存續スヘシ衛生及警察ニ關スル凡テノ法令ノ施行ハ前記稅關ニ於テ當局機關ニ依リ施行スルコトヲ得尙兩締約國ノ各稅關ハ或種貨物又ハ或種貨物ノ分類ニ關シ他ノ一國人民ノ照會ニ對シ回答スヘシ

第二十三條ニ關スル件

仲裁裁判ノ組織及手續ニ關シテハ左ノ如ク協約ス

一、仲裁裁判ハ三名ノ委員ニテ組織スヘシ兩國ハ各仲裁裁判ノ要求ヲ受ケタル日ヨリ十五日間ニ於テ一名ノ委員ヲ任命スヘシ

右ノ二名ノ仲裁裁判委員ハ一名ノ採決仲裁裁判委員ヲ選任スヘシ但シ該採決仲裁裁判委員ハ係爭國ノ一國ノ臣民ニ非サルモノニシテ其ノ領土内ニ居住セサルモノタルコトヲ要ス若シ八日間ノ期限内ニ於テ其ノ裁決仲裁員ノ選任ニ關シ協調ヲ見サル場合ハ直ニ「ラ・ヘイ」ニ於ケル常置仲裁裁判所ノ行政委員會長ニ之カ選任ヲ委任スヘシ

採決仲裁裁判委員ハ裁判ヲ總理シ其ノ判決ハ多數決ニ依ルヘシ

二、初回ノ仲裁裁判ハ被告側ノ締約國ノ領土内ニ於テ開キ以下順次兩國領土内ニ各自指定ノ都

市ニ交互ニ開クヘシ此ノ場合當該國ハ裁判ノ執務上必要ノ場所及事務並其ノ他ノ用辨ニ必要ナル人員ヲ提供スヘシ

三、兩締約國ハ仲裁裁判ノ訴訟手續ニ關シテハ特別ノ場合毎ニ又ハ各般ノ場合ニ對シテ一回開クコトヲ承認シ此ノ種協定ナキ場合ハ仲裁裁判所自ラ訴訟手續ヲ定ムヘシ訴訟手續ハ若シ兩國トモ何等異議ナキ場合ハ文書ヲ以テ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前記第二ノ規定ハ單ニ當時ノ事情ニ依リ必要ノ程度ニ於テノミ其ノ適用ヲ受クヘシ

四、證人及鑑定人ノ召喚及聽取ニ對シテハ仲裁裁判ノ兩國政府ニ宛テタル請求ニ依リ兩締約國ノ當局ハ各自國民事裁判ノ證人召喚ト同一方法ニテ法權ヲ執行スヘシ
以下省略

附記 現行通商條約ノ批准交換ハ千九百二十四年三月十八日「ベルン」ニ於テ行ハレタリ

昭和三年三月二十八日印刷
昭和三年三月三十一日發行

朝鮮總督府財務局

會社名 近澤印刷部